拾遺都名所圖會

前朱雀

E
16
5

逍遙文庫
文庫6
1874
11

城南神社　前朱雀門錄
太日堂　多羅
御所内　戀塚
竹田里　真幡寸辻　成菩提院跡
國分寺　近衛院陵
下鳥羽田中天王　九品寺跡
鴨川曝　久我暇
赤井谷原　樸大路渡　淀城　大橋
達磨堂　長の松　橋本
上津屋牛頭天王　一口
淀堤　善福寺　上三柄
龍雲寺　宇治黒谷　桃山天滿宮

菊萱堂　茶師堂
鳥羽田畑道　牛車　常念寺
竹田街道　勝光明院跡
西芳寺　竹田山王　十禪師祠　猿塚
石茶師　亀井茶師
久我神社　久我社　八幡宮　御所屋敷　松濤軒
樋爪波口　愛宕祠
水無　瀧殿
川口天神　八幡山　十二景
御牧八幡宮　内里王塚
天武帝社　御園原
南元寺　伏見白玉居
立賣　花佗

地9-7

文庫6
1874
11

常盤井
伏見陵
往吉社
東本願寺懸所
觀音寺
大光明寺 茶師堂
大黒寺 天神社
西方寺
森住吉
明壽院
念佛寺
猿木町天滿宮
有馬稲荷
雲雀町神明
稚蓮庵
了峰寺
淀舟里園店
道澄寺
嘉祥寺聖天
仁明帝陵
眞宗院
霞谷
善福寺
猿丸太夫墳
谷口
桓武天皇陵
霧谷
海寶寺 天滿宮
柘川 豊後橋 阿弥陀峰
中書嶋辨天社
沈懸西岸寺
源空寺
本教寺
金札宮
聖恩寺
西本願寺懸所 騎亀堂
光照寺
寶國寺 観音堂
白菊井
蚯子社 茶師院
正覺寺
墨染桜
西岸寺
西休寺
常安寺
石峰寺五百羅漢 稱
安樂行院御廟
法華堂跡
履皇
貞観寺跡
鏡守松
女御貞子墓
車塚
柏原野
西福寺
昇成就院

隆閑寺
八科峠
大王山
金ケ辻
田中社
願行寺
金岡宅
本幡川
普化墓
淀舟宮
頓阿庵
兎道里 宇治橋
平等院 補遺
法自王堂
宇治田原
大佛堂
眞言院
禪定寺 猿丸太夫社
栗林
鷲峰山行場
巨椋神社
伊勢田神社
椙本八幡 武内祠 放生川 浄安寺 三福寺 神牛石 大光寺
久世神社
三室坂
冨野天神
水主社

本幡開守屋舗
等泉寺
浄妙寺跡
本幡神社
淀茶師
不燒池藏
五箇庄
黄檗山 補遺
玉蜻石
三室戸山
朝日山
喜撰嶽
釣月
栗子山 神明宮
八幡宮
三宮
龍安寺
善福寺
向川 向山権現 金色淀
巨椋堤
栗隈大神
七ツ塚
興聖寺跡
指月塚
醫王坂 小篠峯
長沈村 十六村
白釋迦
椎尾山 同郡

市野辺の梵天
井出の風穴 下馬石 右王芝
神童子祇
普賢寺溪
下狗若一王子
土師
誓願寺
上狗里 御霊社
泉橋寺
親原離宮 清見潟ノ
岡田山
笠置山名細圖
稲竈

王水井 鮭問於山ノ名ノ出ル井
藪ノ内
薪 神南備山 茅師堂
段々良都谷 白ノ椎現
藏岡山大神
相樂
動觀音 荒神名
椿井寺辨天 觀音ノ像 國分ノ内
西村 伊勢天社
加茂ノ社
井堤尼大倉問趾 井出川
光明山寺跡
大神森
草内ノ
稲八間武内祠
木津川 樺井ノ
木津 市坂 春日社 念佛石 あまど柿
鯉魚石
井平尾茶切石
法善寺野
東明寺
陶山小見山依詞通

玉川水車
鳥居里
興戸酒屋祠 郡塚
飯岡
祝園春日社 大塚
大智寺
椿井里 松尾社
加物山不動
淨瑠璃寺 郭公名所
栗柄大滿宮
兒瀧

上鳥羽
城南神社

廓さく
多羽乃
田面や
寒の雨
せせ残

鳥羽
行り道

禁裏の洞進
なるゆゑより
都の市中魚
の魚荷のすべて
暗夜なく走るやう
とりくて狗あと
よめる

都へと
走る
魚荷の
具
そのさ
肥さ
るゝ
絵ふ
行り乃こ

鳥羽 洛外にて四ツ塚より南七町ばかり上鳥羽の村に出在家と云ふ民居あり
○紀路 城門ありて是より紀ふみ至る今の道ハ四ツ塚より東へ通ず街道筋なり今堀川の下流の東
五一壇高き細路ありて是より紀ふみ至る今の封疆藪の秀吉公の御代に
徒然草曰 名利の絆より遁れ居たる
元良親王元日の奏賀の声甚殊勝にして大極殿よりの作
道まで耳へきこゆる事部王の記に侍るとや
○名利の絆 浮生の名利に奔走して誓祐寺と号し苅萱堂
野山に蟄居空法師と厭山に登り雑餐し独り其後紀州別當
舊跡 故に今
高野山 本尊阿弥陀佛 坐像
おわして寂し
て天れ
ば 年十一月二日本堂厨
比時源燈 ことほか本尊へ本堂乃
詩人孝黒ありと感ぞ迎来天明
出ぬ して
悲歎 本堂へ
人もこれを見て大に驚き霊験
を迎ふ著し

続後撰 雲井花 苅萱堂 道心堂空法師 後鳥羽院
新撰 白妙の名残れをそ形見なる苅萱の苗末さぐや 後宗雅朝臣

道人現在の霊場なり
ふの節なり
○苅萱堂 上ノ村某町西側にあり 浄土宗 誓祐寺と号し苅萱
道心菴室址 結んで三四年のおこなひ居たり
故に今
高野山 登り雑餐し独り其後紀州別當
坐像 又六すたり則苅萱道心の念持佛か
遺しより星霜累を
厨 頭焼に苅萱の什物名あるもの
時源燈 ことほか本尊へ本堂乃中に祀て安置なり
詩人孝黒ありと感ぞ迎来天明
出ぬ して 九月十七日暁天に寺
悲歎 本堂へ 焼失しより跡
人もこれを見て大に驚き霊験
を迎ふ著し

薬師堂 旧所は町ならん南にあり瑞光山宗教寺
坐像二天并て厨子共に焼失
大日堂 旧所凍側にあり宗安寺
弘法大師の紀ふみ堂内
○法の本念持佛とも
建立の年紀詳ならず

戀塚 旧所大日堂の西浄禅寺の
由緒ある
林道春撰 所の碑碣を立ふ其碑銘ふ曰

鳥羽戀塚者文覺為源渡妻所築也初藤盛遠聘彼婦而無道
之母為嫌母呼而告之婦念不聽則殺母不孝聽則棄夫不義憶
不孝不義吾生不如死欲以身當之乃佯諾曰請失我夫而後可以
従也一夕在閨新粧而卧者即是矣我開戸而待之盛遠約去婦還
設酒與源渡相獻酬使卧於奥婦自沐卧閨夜闌盛遠帰到斷頭持
去黎明視之則婦之首也盛遠甚哀即為僧所謂文覺是也其後在
高雄遥望埋婦之處名曰戀塚世俗所傳蓋如此嗚呼婦孝于母義
于夫節于其身雖丈夫不過此也長安大昌里之節女同日之談乎
秦之悽情臺以貨溏之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉
曹娥之孝溧水女之貞其碑其名古今不泯此婦之名亦然乎彼之
戀之者在色耶在節耶不可不擇也孚屠之有塔銘猶如碑碣也

銘曰

吁節婦兮 惟孝惟義 石可泯兮 貞名不已

正保四年十一月二十九日 羅山子撰
願主 永井日向守直清

瓜の名産は広城の狛里と
詠されしが今もかくれなき羽小紙
まろ胡瓜其味甘く能
焼ふ膳まで祭法ふかし
夏く枕との紀ふる用
とあんま南史み
いろく勝曼らよ
もの五歳の時母
熱病を患て寒め
中ふ瓜と食せん
事ありけり（勝曼
四方を廻訪ふとし
し像の事ありけ
ひとりの神仙
出て我の瓜あり
とて一つと分て相
遣の人ふ大きふ足
て寒瓜ふりとふ

驚異と足至寿
の天ふ通とや
いふべき

初
三菜瓜
蟹み
ん
猫や
ち

城南神社　小松のもり　森の中に小社あり當社久代神切皇后三韓退治の時凱陣の時勝れ給ひ祈の為勧請し給ふ社號を直幡大社と称す延喜式出雲神八國常立尊にて日本不易皇太神宮とうつく其後應武天皇平安城國開の時鎮護の為伊勢七社併せて王城乃巽方石清水加茂松尾平野稲荷の社と共に城南神と号け即ち桓武帝震筭乃神名分帳の社の神躰と云ふ例祭九月廿日神輿二基上る祢下る祢旧暦の森小松等乃八幡宮東の方若宮本社の南上畑生土神と云ふ

常念寺　城南神の巽の方中須村にあり本尊阿弥陀佛の立像にて往古は当寺の地乃字二町えりの地乃字と呼ぶ是則白河院せう故社の号の起りいつれの時にか此地に移されしの有と云ふ

御所内　城南神の南中須村民居一町えり艮の方ふ一堰えりを小殿と今の安楽寿院両帝仙居しの地と又此所のむかひ池の北の地とえり字を高畠と云ふ

此の所あり古へ鳥羽院乃御所にて今は田畑となりぬ土人曰七八十年前迄は此地に御所乃名残の築山ありしと云ふ其外龍頭前堀平門隈乃名ありしと云ふ

千載　常よりもむつまし契ある郭公その山邊の友とそなる　鳥羽院

多祢殿乃東西の堺ふ所乃杉乃木抜ひろひ宮重おれ人とくるしてそ

家集　君ら住やその坪みい菊そ

建永元年八月十五夜多祢殿にて詠ふ所乃菊擔さゝせけるゝ

千載　いかにへもふかの名乃まゝふる月の夜多祢殿乃門い南小おあり其西ふ舟着あり是より神崎大物浦へ下る川下流い鴨川桂川のまじわりふ此わたりふ別荘あり此人後寛僧都をくらし舟遅しとて一度も帰供いのそゞれ通られ給ふ事なし依て此所へ帰幸成しまゐらせ給ふ所乃名そなりぬる

松乃美くもいつべくるゝん　西行

成菩提院　中須村の小竹田不動院の西一町えりふ在上品大玉と云ふ例乃作言之佛也

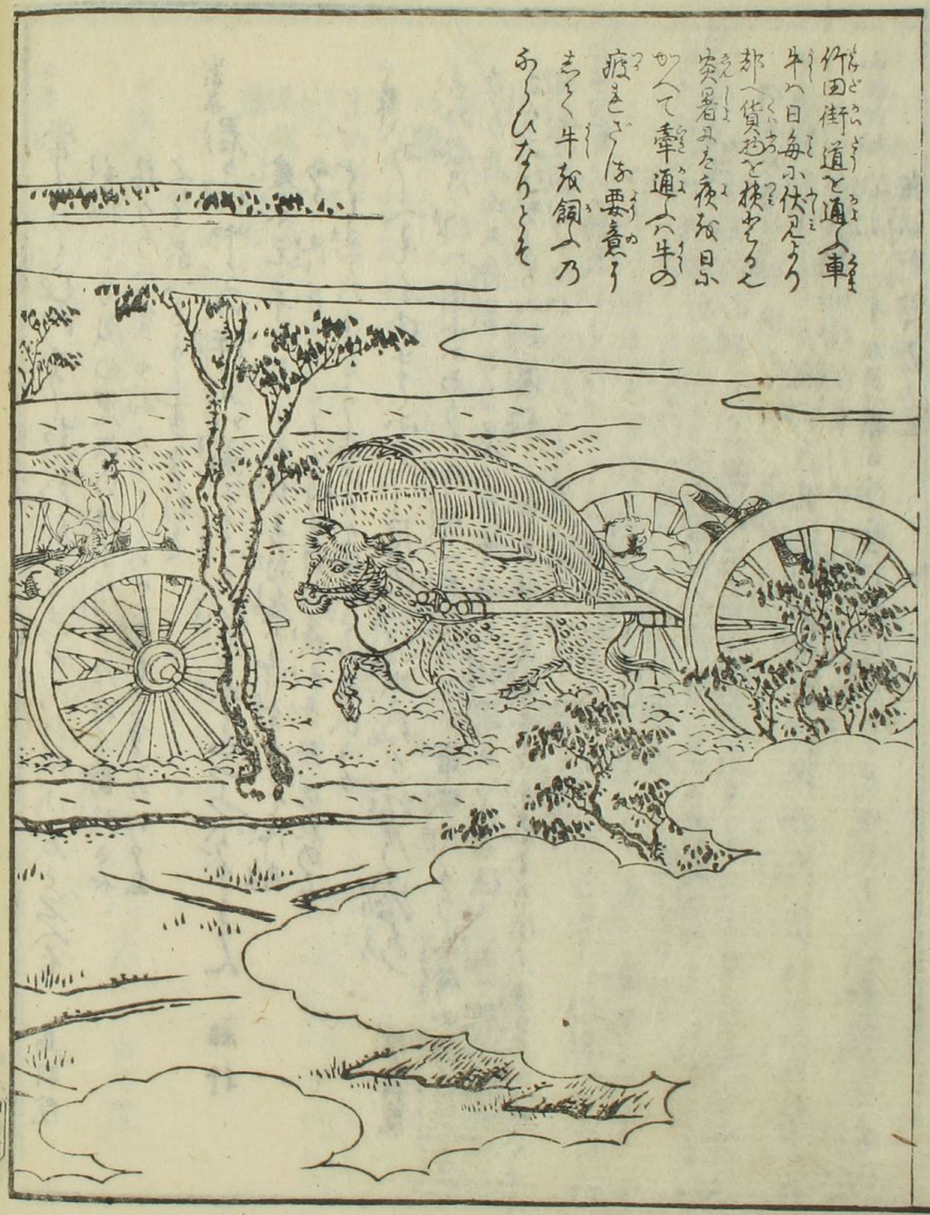
所ふおゐて餓をおろしめして

保元物語曰六月十二日癸福門院鳥羽乃御所ふ現世後生をたのこまいらせ給ふ

山槐記曰安元年九月朔日院多祢殿ふ行幸あり

皆仕る車の上や風薫る

衆雲



竹田街道を通る車牛は日毎に仕込ろ却て貨物を扶ろこそ実暑ふた夜は日ぬかりて牽通ふは牛の疲をこそ要意ろ急く牛飼ふのあらひなろこそ

勝光明院 古記に曰鳥羽にありしと今旧地詳ならず 元亨釈書曰保延二年三月二十三日鳥羽の勝光明院を慶す導師は忠尋 呪願は覚猷 其日帝 上皇六宮百司ことごとく集会して頭るとぞ云

古今著聞集曰
久寿元年二月十五日 法皇美福門院御同車にて鳥羽の車駕より勝光明院へ御幸ありて庭の桜を御覧ぜられける然阿弥陀院を渡せらる給

竹田 鳥羽の東にして洛陽東洞院油小路等の南に当りて伏見往来の順路なり いにしへは真幡寸の庄と号し今安楽寿院北門より少し西の御旅真幡寸の辻といふ又旧院民の外亀若の辻といふ 竹田山王宮の社司亀若氏の宅地ありとぞ

続千載
契りおかん我萬代の友なれや竹田の原の鶴のなれけん夜　法皇御製

玉葉
打渡す竹田の原に啼く河のすがく成すに栽ゑぞ　坂上郎女

堀川百首
心うく竹田の里にふりすてて我夜の鶴もなきやかれなん　俊頼

近衛院陵 小向不動院の北路の西側にあり前編に見えたる美福門院と同陵なり 編年集に曰久寿二年七月廿三日近衛の皇居に崩したまふ御年十七 八月一日船岡山の野に葬て奉る御骨は知足院に安置すと云 百錬抄に曰長寛元年十一月廿八日近衛院の御骨を鳥羽の東殿美福門院の御塔に渡し奉ると云 享保三年大樹吉宗公御治世の初め歴代帝陵の御改ありて其記に曰山城国紀伊郡竹田村仁和寺御領の田畑中にあり

西行寺 美福門院の旧地と云 不動院の北にあり鳥羽院北面佐藤左衛門尉憲清此所に別館を構へて鳥羽の仙院へ昵近す保元元年七月二日鳥羽院崩御の後出家して

厳髪しるし西行法師と号す利髪塔あり仏上寺に遷本尊は阿弥陀仏乃坐像を安置す又西行上人旧倡西行上人の画像共に厨子に安ず又西行上人乃念持仏地蔵尊を安置す定朝の作にして立像一尺八寸火災除滅の霊験ありとて火消地蔵と称す今浄土宗の僧守る

扶桑略記曰
公家近来九条の南鳥羽の山庄に新に後院を建凡方百余町を卜して近習の卿相侍臣地下雑人等各家地を賜って舎屋を営造し宛も都遷のごとし 其広さ南北八町東西六町水の深さ八尺風流の美勝計べからず

山王大宮 安楽寿院の西にして民居の中にあり 十禅師社 保延年中鳥羽上皇城南離宮に坐ます時勧請ありしといふ 大宮の東北乃ぞうりにある末社共なり 昔はこの社頭巍々として神領あり祭祀は神輿を渡し催馬楽走馬等ありし也 里長谷川氏に其時の式法を蔵して今四月初申日祭祀をおこなふ 御幸杜 大宮乃北の方の田間にあり いにしへはこの杜より西の方に三町ばかり北の杜にして則山王の御旅所なり

猿塚 竹田より伏見坑の端伏見坑にあり土人庚申塚と呼ぶいにしへ此地に白猿来て祭祀を乞ふ故に山王権現影向の地といふ又国分寺の旧趾ともいふ ある猿塚といふなり何れか定

國分寺 竹田の里高瀬川の西にあり本尊阿弥陀仏は其日の作にして立像三尺 むかし聖武帝六十余州国毎に一寺を建立ありて国分寺と云ふ 又其頃光明皇后の御願にして国毎に国分尼寺を建て尼僧を住しむ 其旧跡なるか詳ならず 今廻国の者此所へ来って寄宿す

九品寺 国分寺の南にあり 伽藍開基記曰当寺本朝第七十四主鳥羽法皇洛の南竹田の中に就て離宮を構ふ其側に九箇の寺を建て阿弥陀仏の像を安置して安養九品を表す号て九品寺といふ年代久遠なれば次第に廃壊し唯此寺をのみ存すと云

石薬師は同村安楽寿院の東門の北にあり弘法大師の作 亀井薬師は同村常楽寺にあり鳥羽法皇の御念仏にて慈覚大師乃作なり

田中天王社 下鳥羽の北森の内にあり祭神牛頭天王下鳥羽横大路等の生土神とす例祭は九月十日神輿一基あり

久我畷 此道は上鳥羽の南の端西側より入る塔の森を経て桂川の下流久我の渡口を越上久我の里を通る其さきは中間で山崎より王城にかよふ街道にて径直なれば畷といふむかし大内裏の御時西国より王城に通ふ街道にて其名高し古平記に云久我畷合戦の地是なり

久我神社 上久我にあり菱妻明神と号す土人生土神とす例祭は四月巳日 三代実録曰貞観八年八月十四日丙戌山城国正六位上興我万代継神に従五位下を授くと云云 久我杜は当社の森なり

六帖 本々にちる葛は紫せる久我の森淀の渡やちかくなるらん 光俊

旧 いとかやも鳴けるかたら久我の杜本葛も紅葉しぬらん 大伴郎女

八幡宮 同村にあり 右の社乃北に 御所屋敷 久我はいにしへより公家の所領之其別業なり

本清寺 同村民居乃中にあり法華宗にて開基は真滴法師

此里乃民家多く縫宗之舊地の家なり

鴨川 村の名と淀久我の南にあり此所民居乃北には桂川乃下流にて一面の河原なり布を曝を産業とす下鳥羽より南へ舟にてあり

横大路渡口 横大路の町乃南にあり此所より

樋爪渡口 淀の釜に至る中にあり

赤井河原 いにしへは冨森の北より東にいたり一面の河原なり桂川の下流にて橋を赤井橋といふ今...

愛宕社 冨森にあり此所に森あり今は...

淀 京師より南の方三里にあり顕注密勘に云淀はよどみ故の名にて山崎の瀬も中とよぶ所なりこの所を淀といふは桂川鴨川宇治川木津川等の水ちあつまりて淀む故なれど

新後拾 のがれえぬ淀の堰の縄手縄とかの夜をひく人もがな 前内大臣実

風雅 みな人を渡さんとおもふも縄の苦しくもがな淀の川舟 正三位隆教

新千 五月雨に水まさる縄ても打ちて波にひかるる淀乃河船 菅原隆信朝臣

淀城 初は山名蔵主税助の築所之其後秀吉公の御築にて此所に住玉ひて淀殿と号を築亭淀川の河にありて其家之

水垂 鴨川桂川ひかるの蒲合ひの南北に亘る人家ありて南は山崎摂津国路にて続くには樋爪赤井菱川に沿ひて横大路の港し場に出る

阿弥陀寺 水垂にあり浄土宗にて本尊阿弥陀仏立像三尺五寸許り仏工いにしへ淀の弥陀次郎此河乃南より網にて引揚し直縁の為に五箇の西方寺に安置す今の地より小南にありて水輪寺といふ今宗の中興は観空法師なり

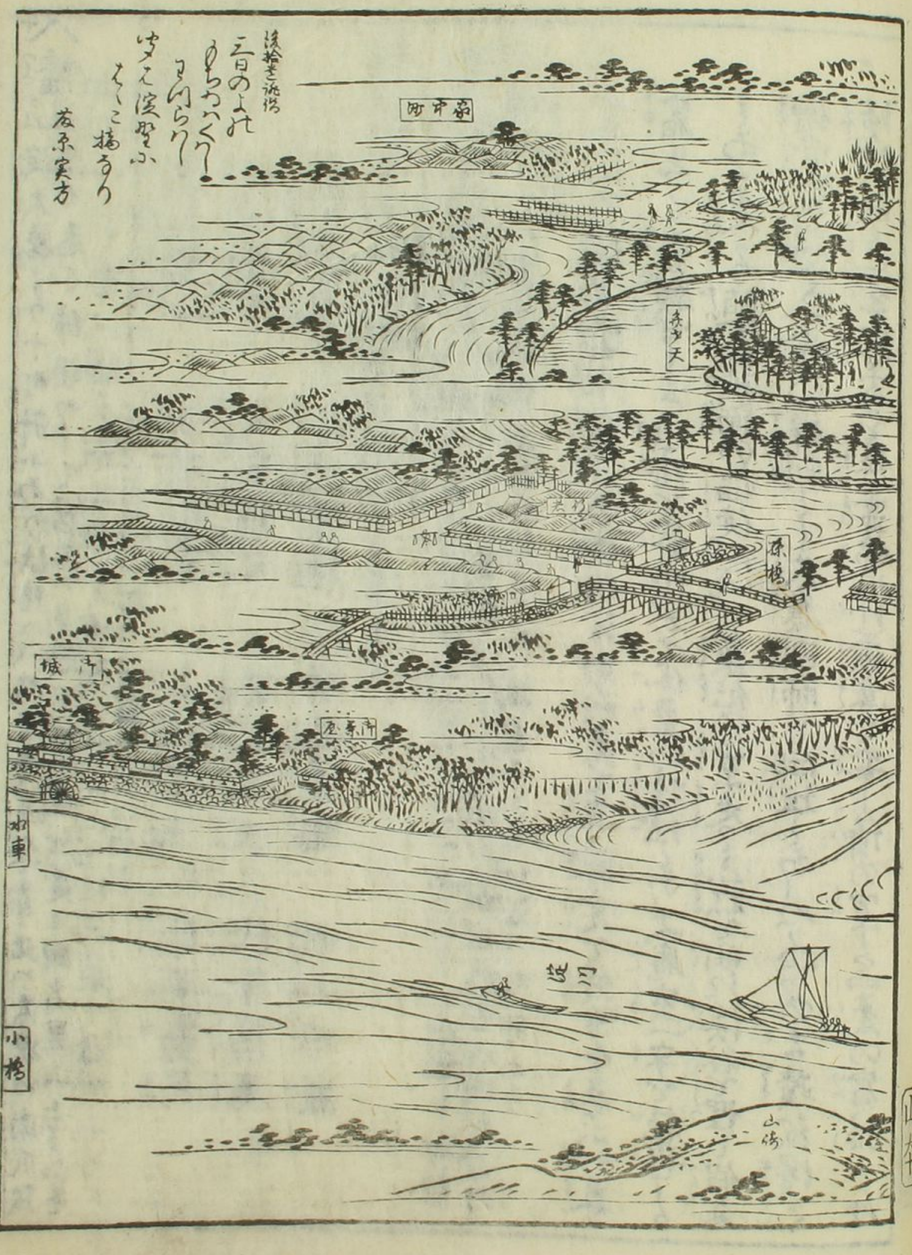
弥陀次郎宅 城の北にあり一家中断の地なり此所に住て漁を事とし

淀渡 秀吉公の御時大橋小橋孫橋架けたりいにしへは淀渡しと大渡ともいふ一流の大河にて舟に

清少納言枕双紙云 卯月の晦日に長谷寺にまうでとて淀の渡りといふものをせしかば舟に車をかきすへて行に菖蒲菰などの末みじかく見えしを取らせたればいとながかりけり菰つみたる舟のありくこそいみじうをかしかりしか高瀬の淀にはこれをよみけるなめりと見えし 下略

よど 淀 大橋 孫橋

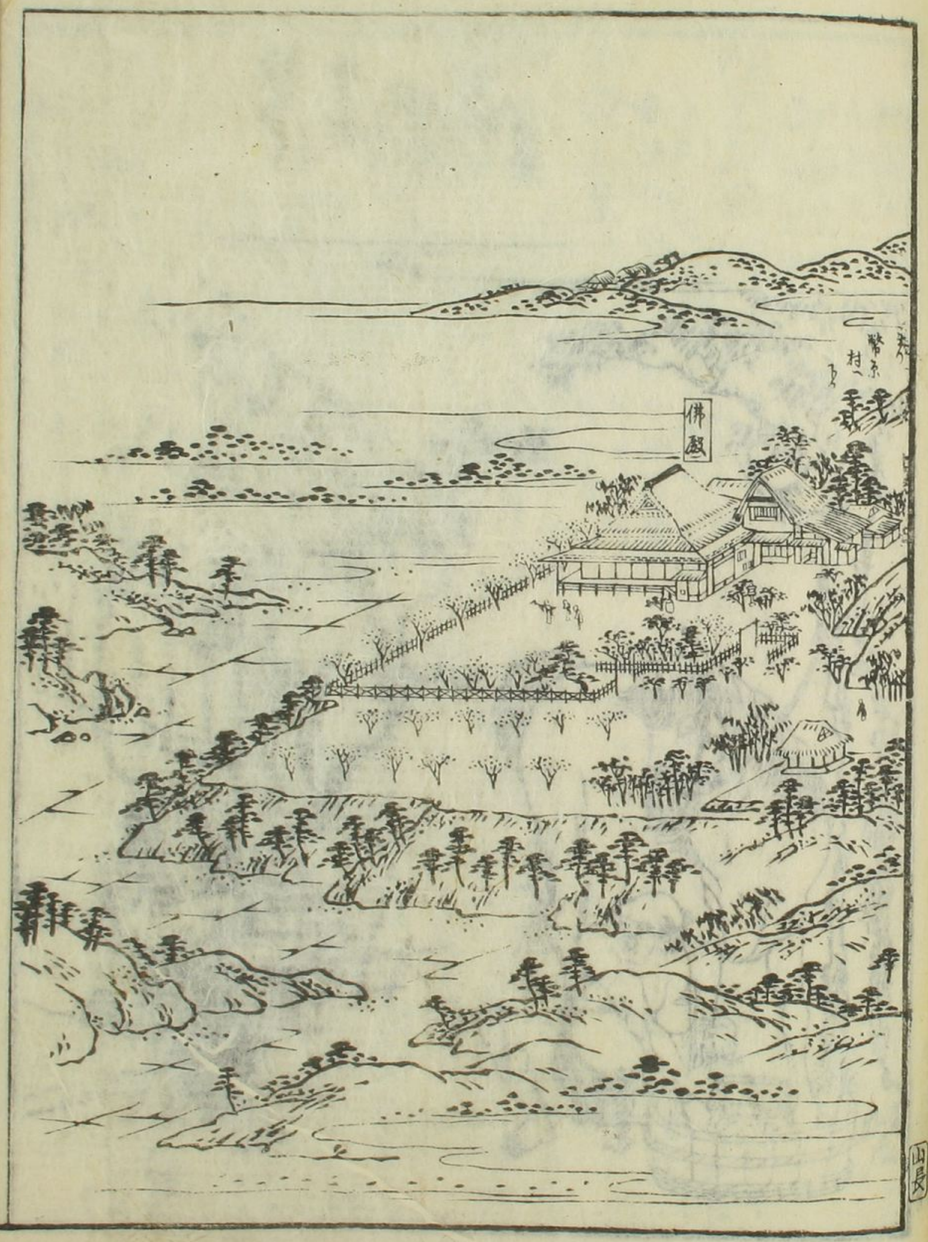
ふごの浜口



八幡山 淀大橋より十町計ありて北の大橋の南爪坂
上に八幡宮祠坐す北の大橋の南爪坂
雄徳山とも書に嶺を香呂峯又鳩嶺と称し山下に民家十餘町あり
辺都會の地にして商家多し一季の前編ふるへし
八幡山十二景

徳山霊社　洛城瑞霞　天台積雪　淀橋斜照
難波滄浪　山崎暁鐘　石水清涼　醍醐霽月
頼風塔　八幡金剛寺なり明人客の裏ふあり　孤川征帆　伏澤落鴈
由緒前編ふるへし　嵯峨暮烟　朝山晴嵐

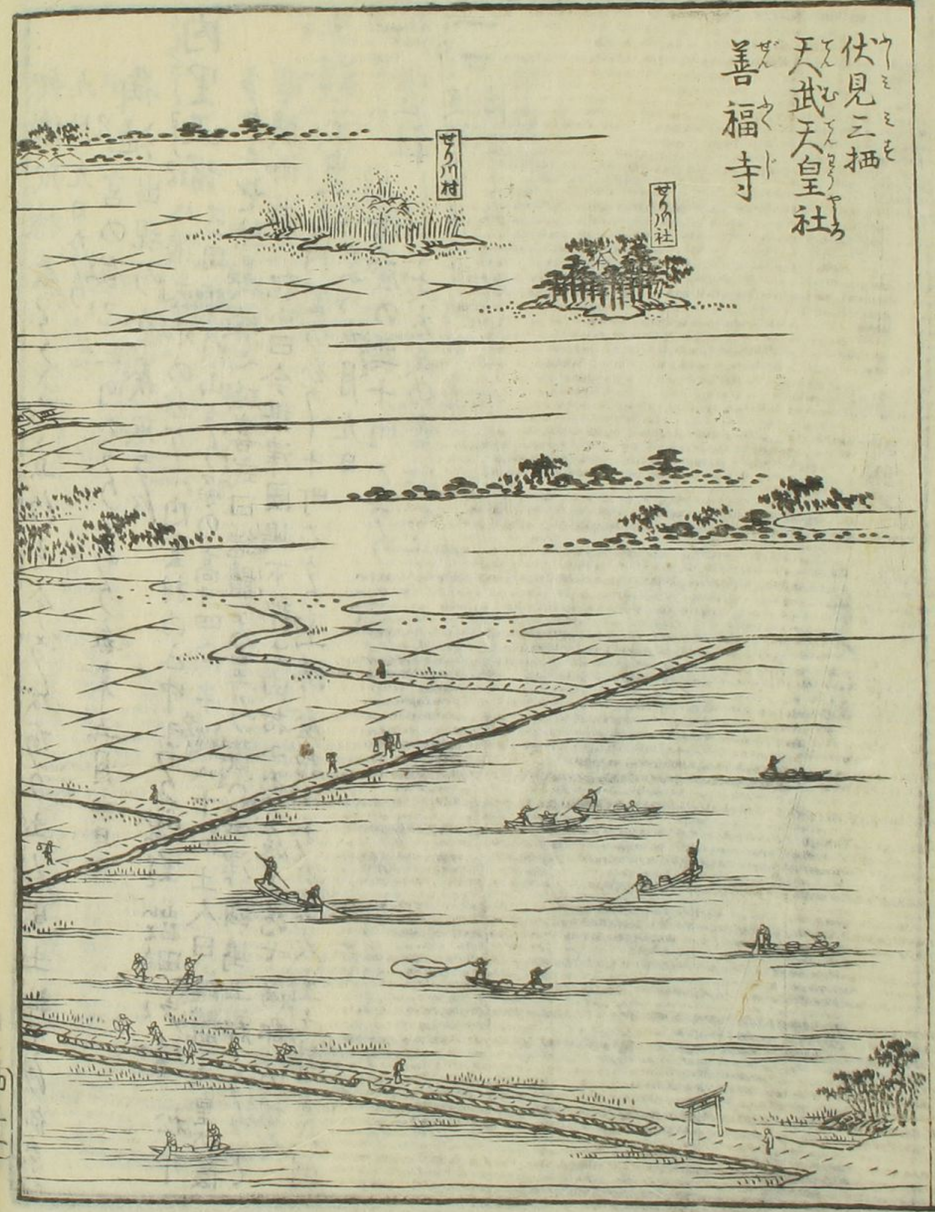
逆磨堂圓福寺　八幡志水町の南高野街道の右ふあり禅宗にして造営も近年
境内にて八幡神領幣原村の内なり天明二年より澄鏡
寺説ふ曰
當宗の徒弟雲水遊歴の僧侶旅あれば先て専禅定を修せん為ふ一尊
宿当ふく發願せるこれ地を寄附ありて伽藍の境地とあり又庵室一宇を施與する
もあり定ろ随喜補弼の檀徒ふのく築祀の営走ろ林を開き渓谷を埋こ假ふ
僧堂板設ふく一宇の禅刹ふく大應国師を開祖とあれば二ッの古蹟旅得ふく
境地の西ふこ雲ふ堂舎を構へ霊像ふ祀
圖會ふ見へたり逆磨寺と号ふ大応国師ふ安置ふ
逆磨大師像　境内の東坐禅堂ふ安置ふる像ふ大和国行圓ふ逆磨寺ふ
ふる像ふ雄徳山圓福寺とふは古號旅得ふく感得せる迄ふ再営ふた
むる聖徳王行圓ふ行脚ふくふるてやりふ泉ありふ飢人いろくふ
に贈答世のふる所ふしばふ署ふ
うりふ悟ふろろふ像を祀を行圓ふ
境地の北藏山飢人ふこそ逆磨寺と号ふ大応
尊を安ふ像ふ祀を行圓ふ安置ふ
長の松　逆磨堂の西摘菓道の傍ふあり枝葉四方ふ繁茂して笠のふく蓋覆
ふる像ふ雄徳山圓福寺ふ
むる聖徳王行圓ふ行脚ふくふるてやりふ泉ありふ飢人いろくふ
に贈答世のふる所ふしばふ署ふ
うりふ悟ふろろふ像を祀を行圓ふ安置ふ
境地の北藏山飢人ふこそ逆磨寺と号ふ大応国師ふ安置ふ
圖會ふ見へたり逆磨寺ふ
長の松　逆磨堂の西摘菓道の傍ふあり枝葉四方ふ繁茂して笠のふく蓋覆
橋本　八幡山の西南ふあり大坂街道の驛ふて人家の地十一町あり茶店旅籠や
とて今中之町と号ふる所より渡口之山崎橋延喜式ふ及び文徳實録ふ
金河　橋本の宿乃南ふあり淀川ふ
金橋　右の川ふ架を橋ふ山城
川口天神宮　男山の麓ふ十町ふり川に村民家の東ふあり氷神天満宮
ふ所の勧請ふ一條院の御宇ふ宇治の郷士ふる人ふ祭ふ
疫ふ男山乃ふかふふ遥ふ宇治山乃嶺を照ふ水の
ふるふ一つの祠ふ祭ふ所旅
を作ふ葦旅得ふる事ふ
殿を造ふ
ふ後冷園院乃御宇旅定ふ



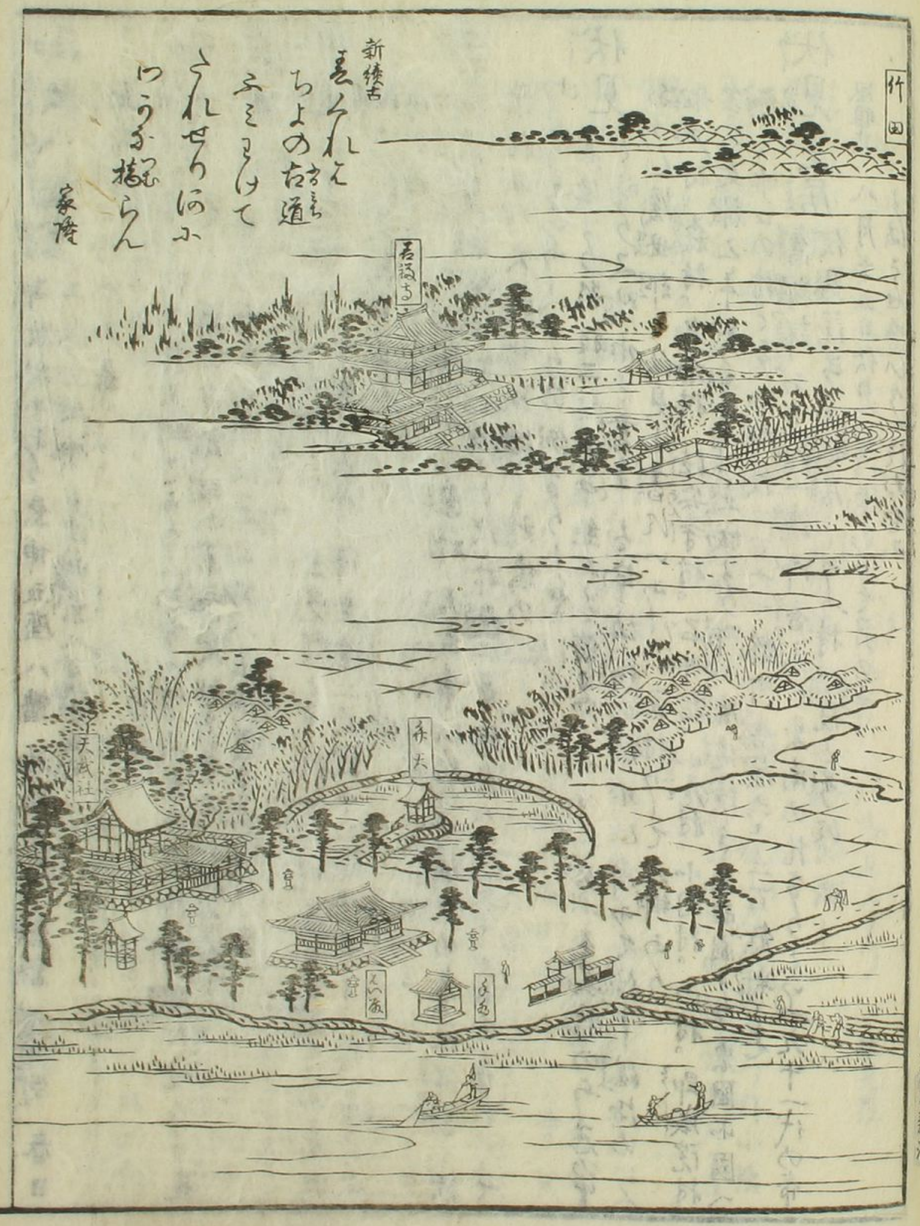
幣原圓福寺

新儀板橋來ル十一月九日ヨリ
九月九日なり
御池　宮の後に二町ばかりあり
出現の系義坂あり
内里王塚　八幡志のふもとに内里村の高サ四間半ばかり
ある同領の山ばかり塚の真
ばかりを義非之延喜式曰継體天皇の陵
帝陵御改之記ふ曰今攝津國嶋下郡大田村にあり上津屋村にあり土人生土神とす例祭
牛頭天皇社　内里のふもと十町ばかり
御霊社　上津屋の巽十町ばかり岩田村にあり系神　御霊八所の其一ヶ所
一口　淀の南十町ばかり
平家物語ニ曰
北を睚視ル
谷々の村々より解てあり折節
鳴て逆巻ふも早ふりふり
も雖の毛もさゞらめ
足波て人々のふもとをふんふやふやられ
べきふの落足をも待ぎ
いりぐぜんと宮ノ下著
御牧　淀の大橋の北爪より八町ばかり
ありて佛ふあり中ふ多村あり
江口　爰ふ古ふ所いふ〳〵天子の御馬寮ノ御牧

伏見三栖
天武天皇社
善福寺



新続古
春くれて
ちよの古道
ふみわけて
うれしきにほふ
梅らん
家隆



御牧八幡宮　御牧村にあり系神五座　八幡　神功皇后　若宮　武内臣　春日
土人生土神と云ふ例祭八月十五日

玉田森　同所の森

御園原　御園村の巽五町ところ
足ら南の方諸村ふ茶摘紙作る事今ふ於て多し

淀堤　淀小橋乃小爪より伏見ふ至る道ら約程一里
秀吉公の御時作ると云ふ東北院と号し初ハ行基菩薩乃開基也
賢王山善福寺　上ニ極ふあり本尊ハ薬師佛坐像二尺餘十二神將共ニ行基乃作
脇士ふ二天仮安置
後世禅宗ニ改ム

天武天皇社　天武帝ふ地ふ佛鎮坐の年紀詳ふあらず
下ニ極ふあり系社土人生土神と云ふ
系れハ六大松ハ瞰仮燈し社ハ
ニて下ニ極ふあり系社ハ
例祭八月十六日の夜ニして
祭礼ハ六大松ハ瞰仮燈し社ハ

伏見　慕浴より約程二里日沸紀ハ
宇治ハ
し唄ハ後世都て伏見と書来
舟戸村。森村。久米村。法安寺村。石井村。小倉村。小内村。山村。即城院村。
等之文献ニ
秀吉公沸立城より町数二百六十餘町舎屋六千二百餘軒と
通ふ喉口の地ふあり一説ニ
伏見皇居　詳ふあらず
風雅集　八月十五日伏見ふ沸幸ありて月の詠

都をハ松原ニ乃村風ふ
松原山　秀吉公沸立城の本丸の地と今ふ古松繁茂し
弘雪堀　城山の内ふあり国称
ふ旧号を失して秀吉公の沸時諸候并乃名
所ニして所名の
宇治見山龍雲寺　城山の内字ニ極ふあり天台宗ニて本尊観世音ハ
常憲院殿の沸念持佛ニて伽中守拝領し当寺
ニ安置ハる初ハ敦賀町ふあり天台宗ニて本尊観世音ハ
ニ安置ハる初ハ敦賀町ふあり天台宗ニて本尊観世音ハ
桃山天満宮　龍雲寺の西ふあり
乃頃忠庵より寄て龍雲山と改ム
門乃僧忠庵より寄て龍雲山と改ム
ふ例祭八月廿五日
護国山開元寺　江戸町ふあり禅宗ニて其號山大鵬和尚ハ
高麗山　木食恵昌上人乃開眼ニ
霊瑞多し故ふ子安祈禱乃
立売　桃山の南東西ふ通る街
氣地中ふ周て端本の花
化て花を咲ニ四日毎ふ都乃市仁出して業ハ
是凡土のおしろはべし

伏見より大亀谷坂
往て大津へ行ふ
道ハ秀吉公伏見
御城の躰ふう両
側しく今も関あの
列侯吾妻へ参勤
しの御供
ハ此道を通る
東海道ふう
なり

去年の蚊
うたく
柳の花

鬼貫

叱咤時移霸業空
百年葵麥動春風
金湯變作桃花塢
遠近霞啟千里紅
東涯先生
平堂
住房
梅林

伏見城ゟ龍雲寺の
やくそく方十町ばかふ
数千株の桃花あり
弥生の候紅艶の色
枕めぐり宇治見ゟ
よろれ眺ハしほふ
して宇治川そふ
柴舟小舟入江の秋
寂寞ね竹田のめん
淀の城八幡ふ峰の
翠微もそも眺ふ
ありて騒人の心
抜動しぐる
宇治見山
龍雲寺

寺ハ後陽成院より後の建立にして
今浄土宗百万遍に属す

指月 江戸町より西の地名なり此所伏見の勝地にして前ハ宇治川の流れを帯て舟乃ゆききあり西ハ巨椋の江渺々として方一里の水面なり月を愛るに無双乃景色なれバいにしへより高貴の楼閣いとなみ清賞の悠々たる秋澄暉の靄々たるを賞する地なり

豊後橋 指月の西にあり秀吉公の御時向嶋に大友豊後守乃第ありしより名とす伏見院皇居の時を桂橋といふ指月の縁に本づく

向嶋 豊後橋乃南爪の民家の地をいふ右ハ巨椋堤にかゝりて大和街道之左ハ槇嶋堤にして宇治に至る文禄年中此方の堤秀吉公の御時設る所なり

中書嶋 豊後橋の西にあり文禄年中向嶋に塁を築くといへる此中之濱乃地なり慶長のころ伏見城と共に滅亡せりそれより年久しく荒廃の地となりしを近年此地町となりていへ乃江口神崎に準ず旅客の船とゞめ揚柳の陰に纜をとめさしあるを歌舞の妓婦舞乃ゆかしさに袖を飄し琴三弦の音ハ月九ゆへべに絶ることなし

辨財天社 中書嶋にあり真言宗にして醍醐三寶院に属し長建寺と号す本尊辨才天女ハ弘法大師の作にして修験道にて宝永年中隆心和尚今の如く再建せり毎歳六月廿五日に当社の祭祀として此辺の賑ひいふん方なし

住吉社 御口船入大工町にあり寶蔵院と号に社辺に大なる古松あり形蟠龍の如し

東本願寺御坊 佛堂本町にあり慶長五年の草創にして本尊ハ阿弥陀聖徳太子の御作立像長四尺ばかり東本願寺の輪番所なり寺内に安藤次右衛門定次が墓あり

常盤井 御香宮乃南常盤町にあり左馬頭義朝の妻室常盤が前此所に宿を設しと称きとも此人こゝに宿とる事唯一夜なり直接世に伏見にうれへとの双称あり後人これによりて名づくるもの也

平治物語に曰

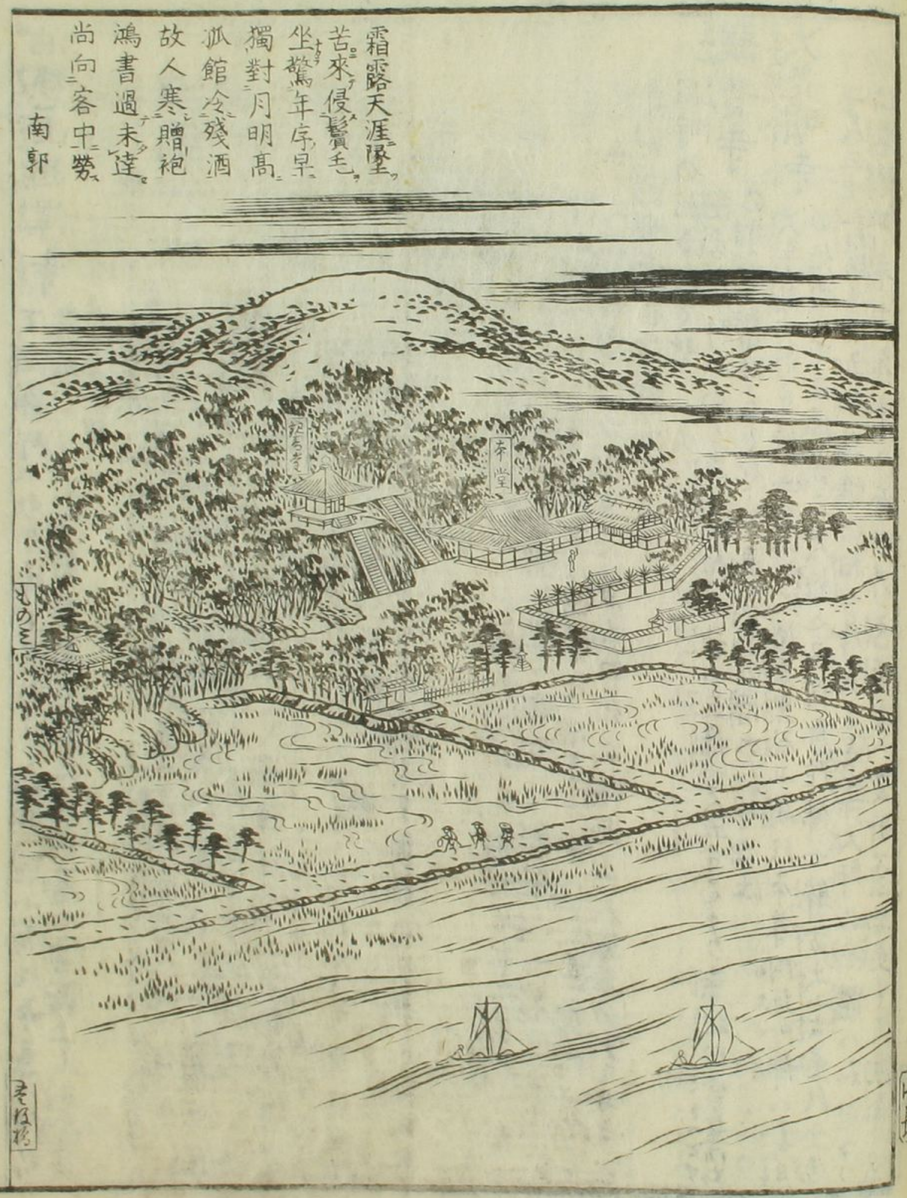
二月九日の夜に入て三人乃おさなき人を誘ひて清水へ参りたれ母にも志らせじと忍びけれども兄の人々つゞきて具せして八ツになる今若をばさきに立て六ツの乙若をば手をひき牛若ハ二ツなれバ懐にいだき中略宇多郡に宿を定めたりけるが…はゝ常盤さしておもゆ冬とも家にぬ藤乃翁さらちよ家子さぞ袂もしをれと志かまた如月十日乃あすまれど餘寒なほはげしくおもくしみ氷のかゝ屋芝のこぼりに足ハ破れて血にそめそるもこゝろとすらその袖さへ志ほまくなもうく伏見の紅母を見るゝともいかへ源氏の大将の小の方とかどしひし時も観ごしが今ハ謀叛人の妻子とうれしとや忍ひ給ん物の憐も志らかけよし情あるやつしとも身も志どりに縁居つてまいり朝ともるて立ぬれど日も早暮て宿に立くれ又立出るべき所もなけれバおやしけるゝ集の戸に往しみ門より女出て情ちりろくそ宿しなり世の情ぬ物乃諸子とてうれ志ふしまた行せらる甲斐もなけれバ命をかくらうけしをと憐なる七騎とてしる人をなしさしとも今吉も三騎ふたて伏見の里に夜をあかし出まどひて木幡山越をあらそいや歩行にても君をと行そとよ下略

一説に常盤井ハ仙石谷傳光寺といふ浄土宗の寺にあり即此寺の縁起に久しく常盤ハ寒をしのぎし所潜みて只懐姙の縁起あり

伏見陵 元林木町松林院の後にあり後花園院の皇妃嘉楽門院信子の墓なり内大臣藤原信定卿の女にて後土御門院乃御母なり此

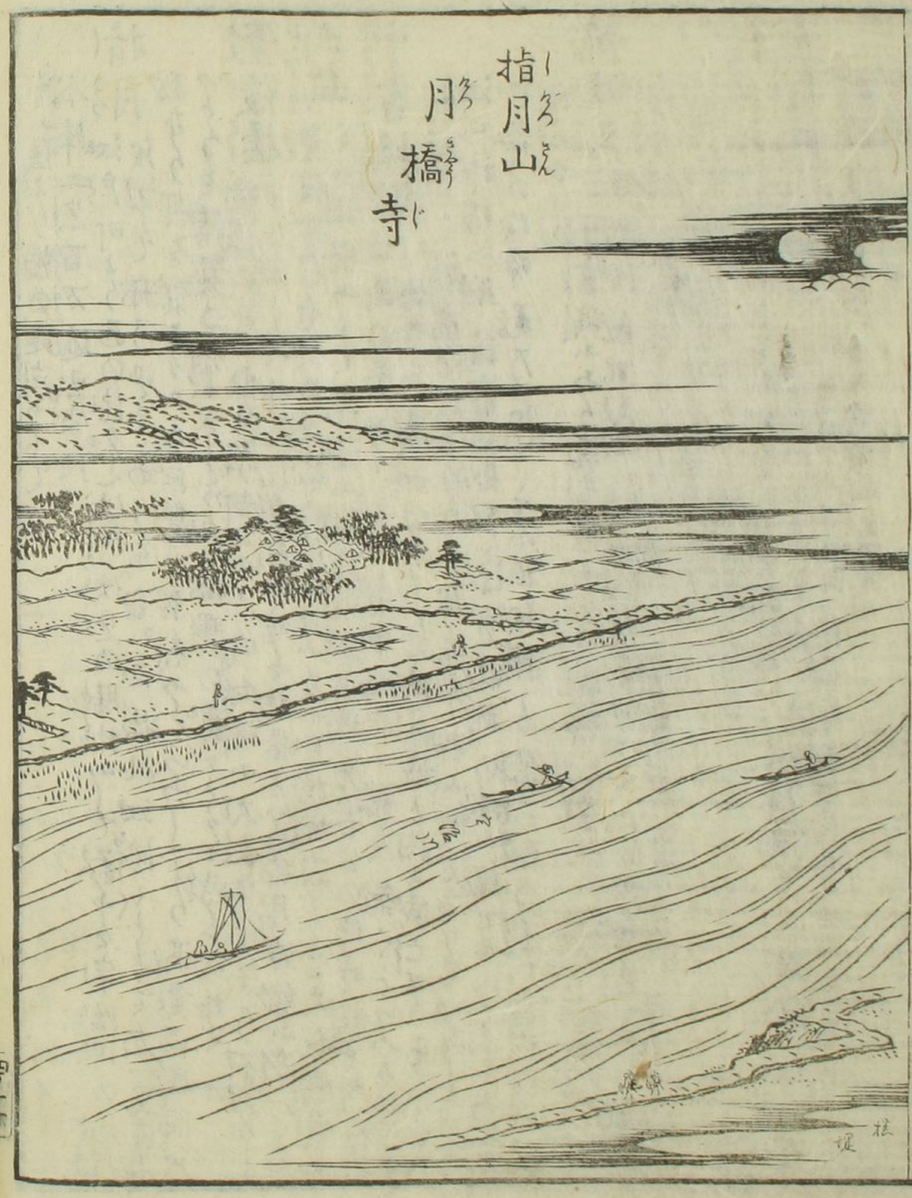
霜露天涯墜
苦來侵鬢毛
坐驚年序晏
獨對月明高
孤館冷殘酒
故人寒贈袍
鴻書過未達
尚向客中勞

南郭



指月山

月橋寺



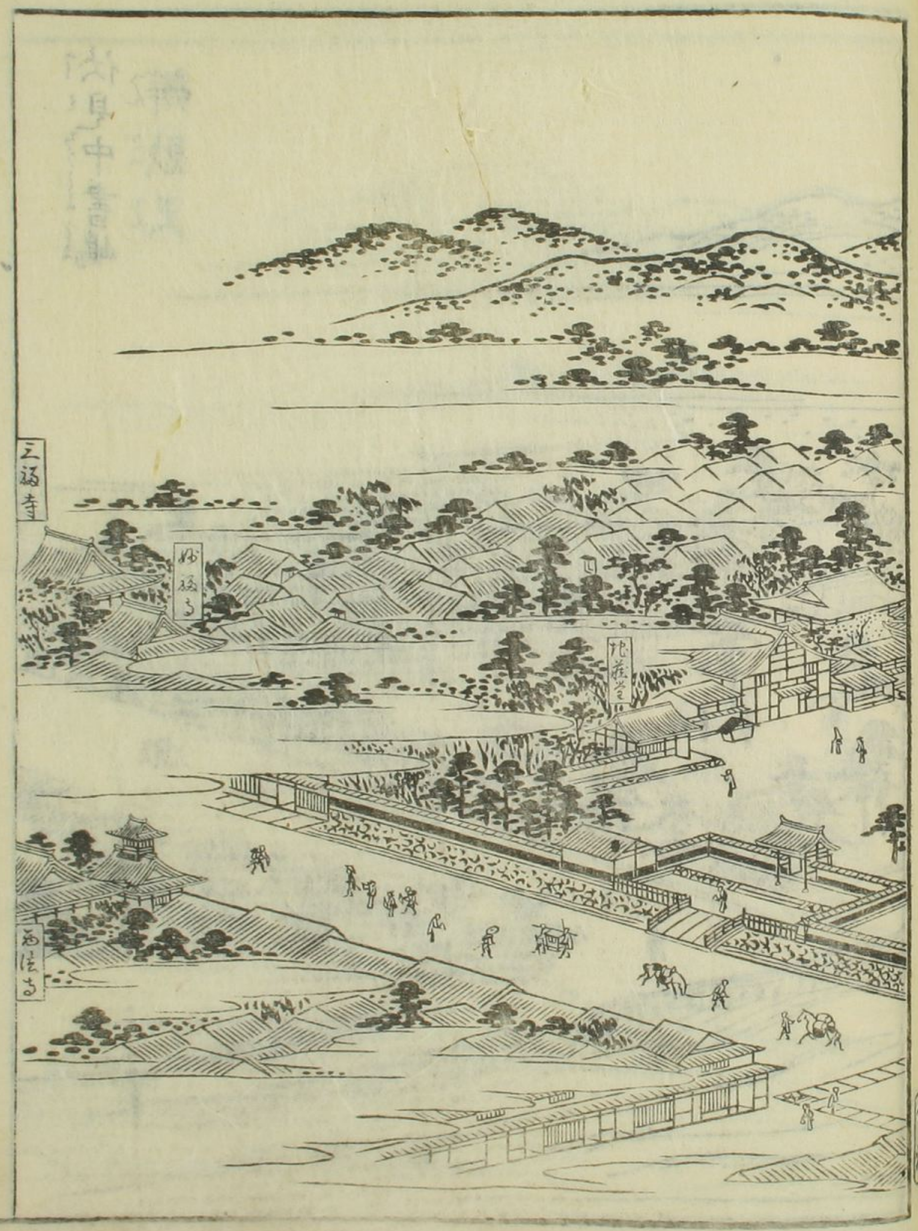
油懸山西岸寺　下油懸町にあり浄土宗にして知恩院に属す本尊は阿弥陀佛にして定朝の作立像三尺開基は雲海上人西蓮社
岸誉と號す此文字を
撮て西岸寺と称す
油懸地藏　は門内の小堂に安置す此地藏尊は石像長五尺作は詳ならず
満足せしむとの誓ありて祈願ある者燈油を此像に灌ぎて所願
[illegible]ある油商人あり附油を流し周章して檐桶を拾ひ見れば餘油も殘らず
此所に立居なり暫くしてほとんど[illegible]ん[illegible]る所の
害あり[illegible]んぬるを歸りしよりそれより幸
油を灌て一念の強執なく歸りて[illegible]油を懸
日々に榮えて大福長者となりぬ是より世に傳へて頗る靈驗ある事を
て諸願成就祈るの
今に至りて靈驗新たなり

源空寺　今は新大黒町にあり浄土宗にして圓光大師の舊跡二十五箇所の其一
[illegible]して第十五番の靈場之舊は醍醐乃奥炭山の光堂法然上人
閑居し給ふ旧地なり後世光堂は此寺乃末なりと其舊號を
さて[illegible]つとも本尊阿弥陀佛は惠心の作又法然上人張子の影を安置す
粟生光明寺の沛親と

觀音寺　同時の作なりといふ
の　観音寺町にあり本尊觀世音は立像一尺五寸ばかり寺記曰常盤御前
守本尊なりといふ今は真言宗の僧これを守護す

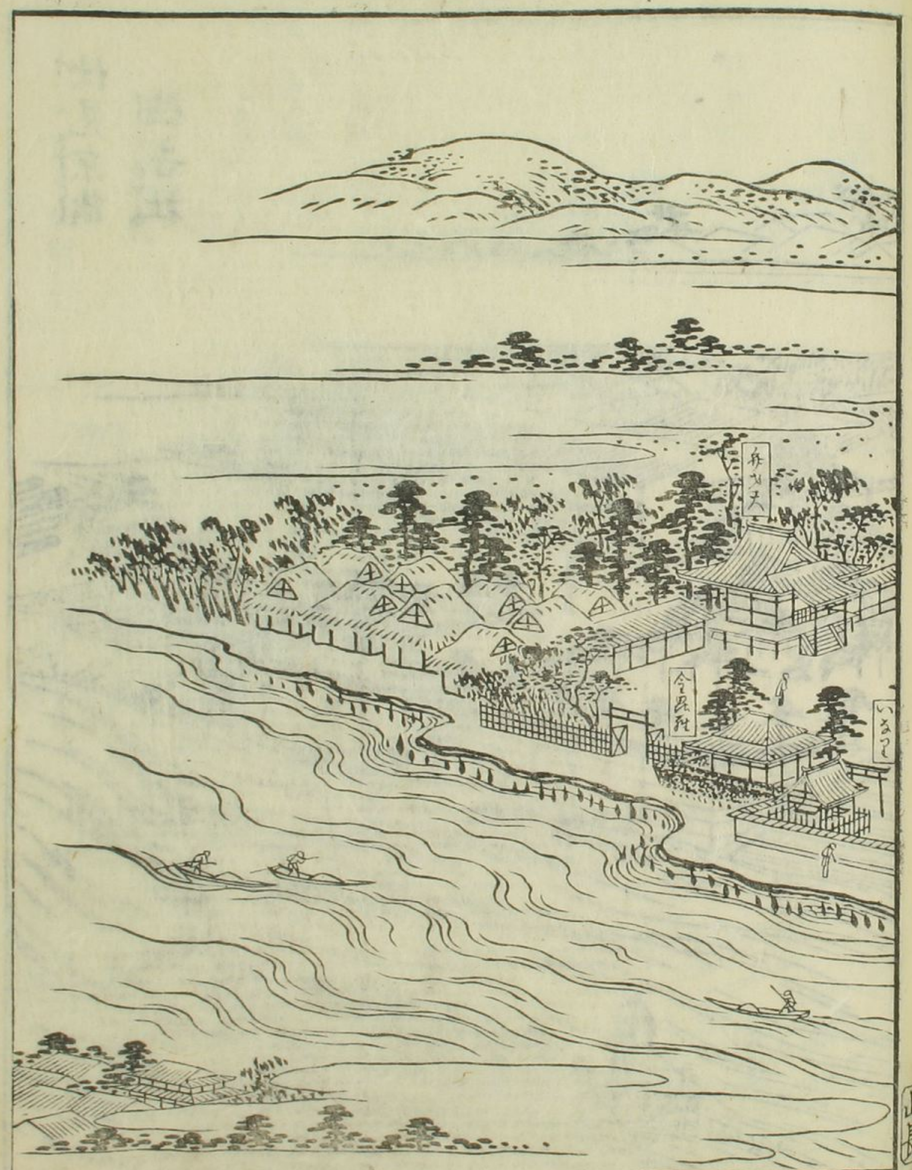
大光明寺　大手筋にあり浄土宗にして洛東黒谷に属す本尊阿弥陀佛は
の作にして立像長三尺餘又阿弥陀佛一躰丈六に安置す坐像
二尺三寸計にして五劫思惟の相之佛首を善導大師の作體は作なり
此尊像は年十夜中は本堂乃本尊像と入替り厨子に安置して法會を修す

執行を故に
十夜佛と號す　藥師堂　門内の東にあり此堂の像は惠日の作なり毎月[illegible]藥師
本教寺　撞木町にあり法華宗にして市店多し洛の本法寺に属す
開基は日受上人福昌山と號す
金札宮　鷹匠町にあり祭神天太玉命一説には橘良基の靈なりといふ白菊翁
秀吉公城山に遷して守護神とし久米村にありて神社巍々たり延徳年中に
慶長の落没にまた此地に
を例祭九月十五日社僧喜運院といふ
大黒寺　旧町西側にあり仁和寺院家尊壽院に属す本尊大黒天は弘法大師
の作脇士に不動毘沙門を安す又脇壇に観世音を安置す
是古へ乃本尊なり慶長年中に草創す天神社又竹中町にあり兼濱氏守護
にて薩州の志守れ祈禱所なり清水あり
西方寺　風呂屋町にあり東本願寺に属す古へ金札宮の旧地にありて久米神宮寺と号す
親鸞聖人の弘法に浴し西方寺と改む金松氏の末葉にて今九四華れ烈と号す
聖恩寺　京町五丁目の東裏にあり禅宗黄檗派にて無本寺也
本尊は釋迦佛開基は法雲和尚
西本願寺懸所　新町七町目にあり
勝竜寺と号す
森住吉社　住吉町にあり大椽社と号すいにしへ森村に鎮坐あり文禄
年中森村乃民家此地に移りし附神社も共にうつすを
明壽院　新屋町にあり真言宗にて醍醐理性院に属す
本尊は青面金剛を安置す
光照寺　革屋町にあり浄土宗にて知恩院に属す本尊阿弥陀佛は運慶の
作開基は晃誉上人文禄四年の草創也又阿弥陀の像一躰は
安阿弥法慶の作にしてこれを麦干の
弥陀と称する縁起あり



伏見大光寺

伏見中書嶋
弁財天



伏見京橋
住吉社

松蔭を
行交ふ
人のみち
も木立

斑竹

寶國寺　駿河場にあり浄土宗にて知恩院に屬して本尊阿弥陀佛を安阿弥の作引接の相之開基は圀誉上人

観音堂　門内の右にあり脇士共に立せり長一丈五寸七歩蓮臺ともに清水寺と同時之創田村将軍の守本尊を移し後世當寺に奉附せり靈驗いちじるしくして城主佐々木家より安堵の法會ありと諸人群集して門前市店殷賑也

念故寺　聚樂町にあり浄土宗にて知恩院に屬して本尊阿弥陀佛を佛教大師の作之開基は頓誉西堂　天正十八年の草創之

天滿宮　本町にあり本名は菅原道眞公の遺所の社地は往古女町之内なり今荒廢して纔に拔殻七軒町にあり此所の北の旧地なりと云

白菊井　拔殻中の町にあり

蛭子社　上拔殻中の町にあり

有馬稲荷社　墨染の旧地なりと云

右神宮　當國一宮神明

正覚寺　墨染にあり浄土宗にて知恩院に屬して本尊は三尊佛（弥陀勢至）なり

墨染櫻　寺内にあり

世継物語云

今いむろ園融院くらしおきて人のうをやるとて

墨染れ衣うき世の花盛りつもりてもをとてくるく

墨染寺の什寶の古屏風の繪の上の秀吉公自筆の和歌

おくれてもまたも絵さるる櫻本の苔の下にも墨染の袖

此寺は細川幽斎の建立にて自筆の額ありしが今は所も知れず

地名となり則京師より伏見街道の傍にあり

種蓮菴　花の森にあり近年開く所之小堂舍の建立あり

了峯寺　同所にあり禅宗曹洞派にて洛陽宗仙寺の屬にて開基は月堂和尚

西岸寺　本尊は釋迦佛開基は中之村町にあり真宗にて西本願寺の屬にて開基を九條殿下兼實公の息女玉日君之則親鸞聖人の浄墓所なり聖人小國左遷の擬玉日君は此地にて逝去之

草鞋影　親鸞聖人小國經田の畔にて草鞋を履て歩行する形見とて計左の金像右の杖を携草鞋を履て歩行する像と墓坐の山數乃形有阿弥陀佛を彫刻せり

玉日君墓　堂乃南にあり

西休寺　紙園町にあり浄土宗にて知恩院に屬して本尊阿弥陀佛を拔楽町にあり此寺は昆首羅天の作之引接乃相にて慶長九年の草創なり

源氏の里
團屋店

源氏香の
図
安くれい

京の
小町
よ
笑
そやら
夜
去来

源草里云うしの谷和山を限てあり田里南の墨染小椙荷を限てあり
鶉の名所にて古人の秀歌多し
年ハ荒繕ふ
新古 そひ入身をうき草のあしまや木枯の風 家隆

續古 源草や昔古とも忘れめ哀うき 土御門院
山里乃名産の土瓦風爐具外一枝をも産業とする蕃椒の粉の園をいふ
世みな高し 源草筋遠捨小六町目にあり本尊地蔵尊の約基の他あって立像
道澄寺 長五尺ありといふ則寺の銘を鋳る子が蓄ハ大和名所記にも
宋と寺今律宗堪好法師ありて本尊阿弥陀佛の門外の南にあり堂
常安寺 旧所にあり浄土宗 十一面観世音坂安楽行基の他心之腰掛ありて中央釈迦牟尼佛長六尺計の坐
比松ある春日の社を安ん 源草石峰寺後山にあり
石像五百羅漢 像五百羅漢五百の大小子園繞し釋尊霊鷲山に於て法花を説給ふ体相ある羅漢乃傍おのく長二尺計もあり雨露
霞なし 釈迦安永の年より天明乃ころまで約莫成就に花
画工寂中老石面ふ
圖して指麾を
嘉祥寺 旧所僧房村のむかし安楽行院の焼肉にあり本尊聖天尊
安座ハ中興空心上人安楽行院再建の時西乃方竹林の内

井の中より堀出せし霊験いちじるしき当寺乃封境
廣大みて伽藍巍々たり仁寿元年二月仁明天皇清涼殿於て
嘉祥寺 寛録ふりくる由是徳寿と改元ありと
地多くあり是ふるき祥瑞の旧蹟なり
仁明天皇陵 今洋式後帝陵と改ふ諒堂房舎乃営
陵 又沸骨堂ともあり
文徳實録曰嘉祥三年三月已亥下て平陽殿の庭乃倚
續日本紀嘉祥三年三月廿一日葬于遺詔みて葬送薄く綾羅錦繍乃類ふし帛布ハそなれふ代
詔吹方相の儀ふくく
傳止ふ使ふ
安楽行院御廟 旧所堂前南向ふあり
乃沸女之帝陵記曰後陽成院
和三年八月崩
法華堂 旧建ふかの院今の中門の所にあり
石櫃あり六枚の蔵石どうべ
収らる所ふ後源草院。称光院。後土御門院。後柏原院仕四帝の沸骨を
事皇代記明應記二水記等ふ
玉葉集
八月乙ふ法華堂へほりて
芝の下乃をとろくしくけ
やらまそおりひはをけ
源草や嘉ふつる乃をとろ若の杖そろ志れゆく

真宗院 安樂行院の西にあり淨土宗にて西山派深草流義の本寺
ありて佛殿乃本尊阿彌陀佛乃坐像にして長四尺そうろう云々
祝なり脇壇の左右に善導法然西山の影を安置して二重屋根の
佛殿の額に龍護殿と書して二重屋根み同ふかくるえ祈禱の額い正面
唐戸の上みかくるえ真宗院乃堅額い堂内外陣乃中央うかがふ
援源草の院の震筆そうろう

通西軒 佛殿の西うしふにあり此屋女人界外級許して藩屏を
隔て前に大眾外相の立石あり是當寺乃別院そうろう本尊釋迦佛坐像一尺餘にして宝冠乃
經藏 佛殿の後西向にあり本尊釋迦佛坐像一尺餘にして宝冠乃
相そうろう脇士いたみ迦葉右に阿難左に安置
鎮守社 祠殿乃うしろにあり愛宕祖神
開山堂 當寺い援源帝の本願みて
坤の方今民家の間み萩あるの所とい具所に長又天そうろう五輪
當院中興い誉願寺乃龍空上人
にして今の如く再建ありしくそうろう真宗院み
霞谷 山い宝塔寺の地より真宗院み
南い谷にまでの地乃うしろ
古今草深紅霧の谷ふそうろう
王吟 おもひやは苔乃下ふを步くえる雪ぬる夜の谷ふそうろう

文座秉秀
家隆

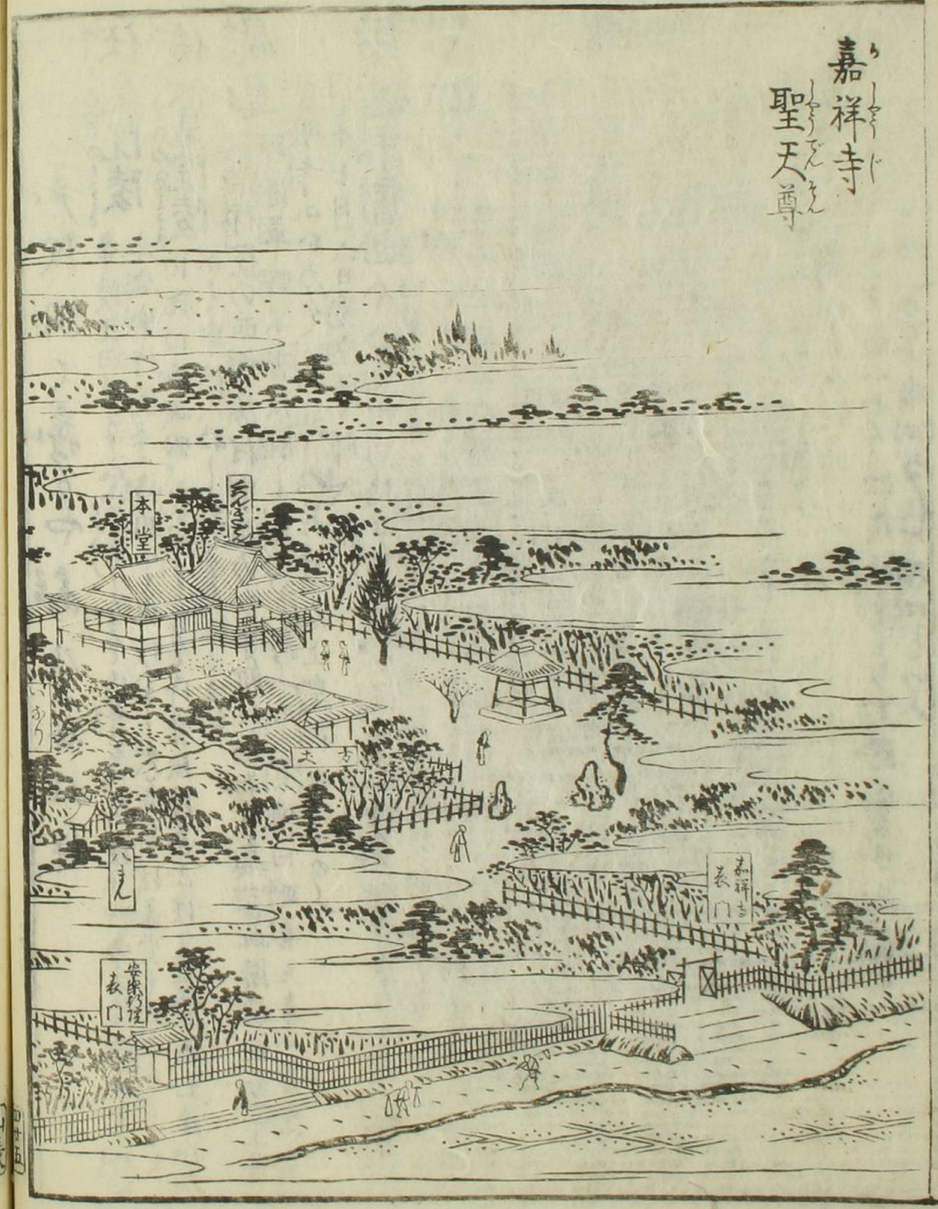
夫木 秉源紀夜の谷ふそうろう

錄倉右大臣

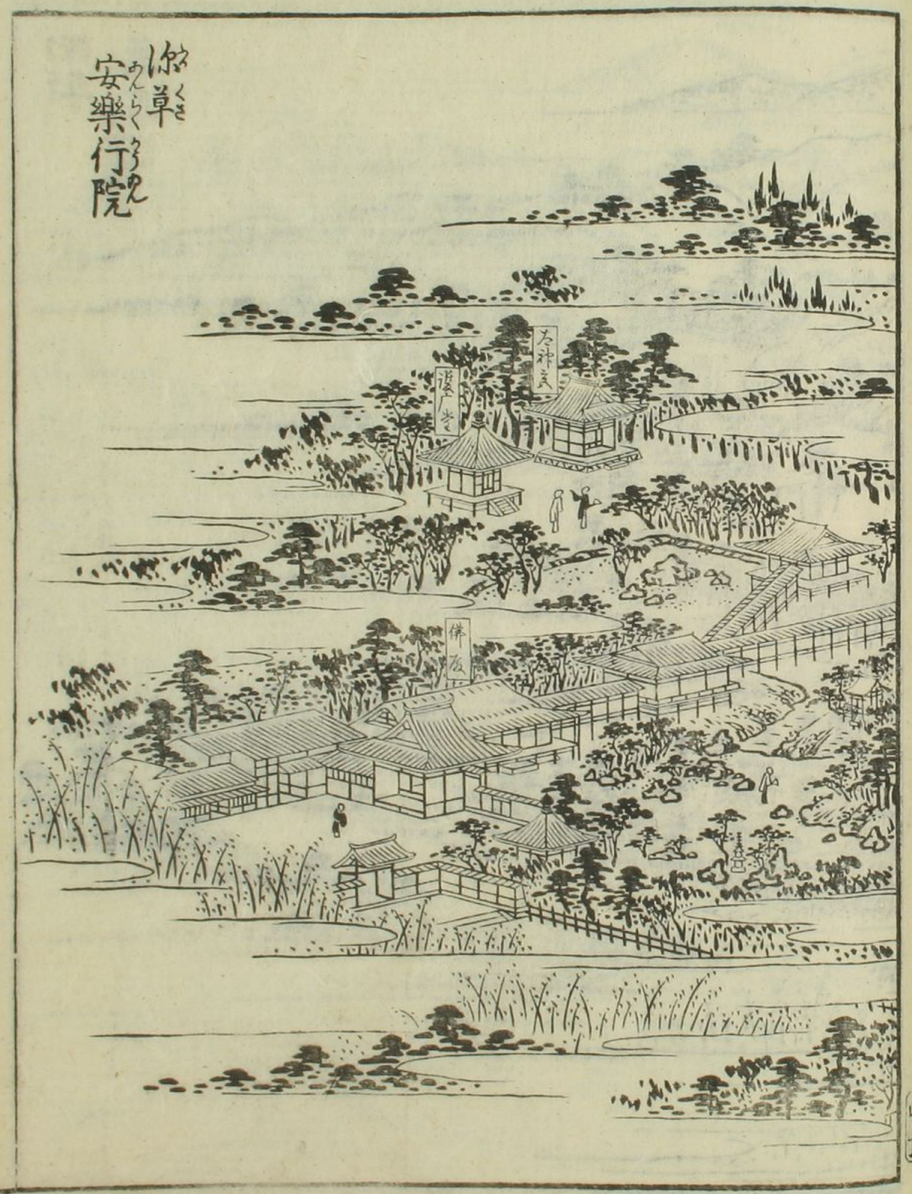
戸坂岡て寢りや霧乃谷れ蝶

伏見院陵 帝陵記曰深草山ふ葬しまる所骨を日所後深川帝の陵法華堂ふ藏む
今安樂行院ふ葬し焼骨ふ申納へふし火葬所法華堂も去ととえる
後伏見院陵 日記曰深草野ふ火葬しまる所骨ふ法華堂ふ藏む今此所
ふも申納へふし火葬しまる所骨ふ法華堂ふ藏む今此所
履皇 安樂行院の西僧房村申酉の方字町計ふあり真言血脈抄曰聖宝尊
師深草野ふ於て天しまる聖寶傳曰延喜九年四月深草
晉明寺ふおゐて病ふ臥其時を上皇行幸しまつる
日ふ年七月六日聖宝尊師入寂
貞觀寺舊地 今の尾町の地乃貞觀寺乃二從墨染寺の地貞觀寺乃三代實錄
曰貞觀四年右相祥寺
善福寺 は郷尾町ふあり眞宗
寺の祖願知の孫祐願
嘉祥寺の封境ふして東本願寺ふ屬し開基東山勝久
嘉祥寺開祖眞雅僧都へ佛附
猿丸太夫墳 尾町の西田間ふあり
鎮守松 は郷高山の内南の方ふあり
東ふ城塩ふして字の所
女御貞子墓 今詳ふ後女佛ふ
從一位祐賜ふ源草山凝乃
兆域乃内ふ葬ふとえる
谷口 源草郷ふ至ふ山澤ふ至ふ伏見より大津ふ至ふ街道之
是より山澤ふ至ふ谷口という

嘉祥寺聖天尊



御草安樂行院



深草真宗院

桓武天皇陵　柳原の中徃還道谷口村の濱よりあるく
延喜式曰柏原陵在山城國葛野郡柏原村土人谷に氏ると云ふ陵に至りまた桓武天皇陵
ありと兆域東八町西三町南五町北六町也桓武天皇城國紀伊郡
加茂守戸五烟と云ふ江次第二曰稻荷山の南れ野
拾芥抄曰伏見と松原の中ほどあり東邊ほどに入て稻荷山の南の野にあり
山槐記曰伏見と松原の中ほどに入て稻荷山の南の野にあり
編年集曰桓武天皇諱は日本根子皇統珍照尊と山部親王と光仁
帝第一の皇子ほどり延暦二年都を山城國平安城に遷し同十二年
十月廿一日都を山城國平安城に遷し同十五年二月十七日崩御
類聚國史曰延暦二十五年二月辛巳天皇崩ぜ給ふ未乃日山城國
葛野郡宇太野に於て山陵に葬り奉ふ柏原天皇と號ぞ
おのづから燃る日あり其時西北の方に滿く京中望み見る所の
山陵の地かとし大井比賣小野栗栖野等のふもとあつて
共に焼は烟炎四方に滿く京中疑ふ所の
山陵の地かとし太井比賣小野栗栖野等のふもとあつて定むる所の
即ト筮皆依ふて亀筮依ふて定むる所の
ふ筮從つて亀從つて定むる所の
あはたゞ火災異頻ふ茶ほ慎ざるべんやとて祈禱
立所ふ鎮ぼ

きれど桓武帝を今の京城を開れ給ひしを聖意をみしるあ
平安城百王の冠ると今時一千有餘載乃星霜依歷れ
とも遷都うれいまだ中華ふをそのため依聽ふ白麟

黄龍乃瑞ありさもれともこ天下の四民泰平の化ふ浴し幸み
皇城の市ふ都會して雜貨依交易しある雲水の勝を訪
て神窟佛墟赴觀をとるふ皇徳の彰明みて天慶
四庚を億年を彌らんことをおぼへ
車塚　右陵より東好の間一町計ふの岸ふあり里天皇帝葬の風輦を藏る
所ふうつし今垣平て畠とうをとゝいへども名ハ殘を
神輿墳　谷口民居のむら一町ばかり大語の西ふあり俗云嘉祥寺鎮守
乃神輿ふうつす故ふ鎮守の地ふむしりいふ
柏原野　谷口の西れ野をいふ桓武帝依柏原天皇と号に帝陵をも
霧谷　谷口のむらの總名
福聚山海寶寺　本森のもと上町ふ禪宗黄檗派みて本尊
觀世音ハ清國南京人鐵聖王の作ふ脇士ふたり
虚空藏右ふ將軍地藏を安置
聚山二代乃隠居所之佛殿の
大ほ國郷江湖別傳徳ほ縣乃人
火光鏡　南京乃傳来みて當寺第一の什寶
鎮守天滿宮　菜神清自作の尊像依安置

谷口

桓武天皇陵

桓武帝陵

西福寺　薮の内乃至　大亀谷敦賀町にあり　如意山光巌院と号し浄土宗にして知恩院に属す本尊阿弥陀佛は聖徳太子の御作長三尺八寸なり
東照宮より境地を拝領して草創ありしとぞ
釋迦堂　堂裏に天竺目蓮尊者の化して閻浮提に住居ありし所之御製ありと。當寺の記に曰人皇九十六代の帝　光厳院
玉くしけなるてらとれいを称ふるも身を袖ふも浪底
光厳院
牽詣　光厳院禅定ハ伏見の奥光厳院と申し幽閑の地ゟ仏乗ゟ
即成就院　藤森の東を小泥と云ふ二町許ゟ大亀谷小学町ゟ
泉涌寺の内法安寺乃至律宗にして
江戸町乃旧名即成院村ゟ
則後綱朝臣の石塔あり白
下野國那須庄領主時ゟ寄附しゟ
伏見城を築ゟ
大亀谷乃至
隆国寺　開基ハ洛の本能寺日達上人之法華勝劣派の學室とも
八科峠　佛國寺乃ゟ
名義詳ゟ
木幡関守屋敷　六地蔵乃西ゟ
秀吉公伏見城を攻ゟ
伏見城還の節城中ゟ
今乃道成開ゟ
千首
去ハ乃至木幡の実乃
等泉寺　大亀谷敦賀町ゟ
長八尺餘乃坐像之開基の等超禅師中興ハ園西十徳今女僧星ゟ
天王山　ハ所佛國寺の山號之則ち
中ゟ年ゟ
黄檗國師ゟ
中ゟ
合ゟ
弘法大師の
公勢ゟ
当ゟ
堂ゟ
安置ゟ
庫ゟ
人黄檗山ゟ
故ゟ
木幡金辻　六地蔵町ゟ宇治ゟ
乃ゟ
平治物語曰
明十日乃朝右衛門尉業景とゟ侍士数ゟて
舎人竹澤とゟ者ゟ
ゟ

澤妙寺旧蹟 六地蔵町より宇治道乃南一町餘みて北東へ入る事二町ばからありて今古木なんどを殘せるを
らありよう 本朝文粋に載せる
新後拾遺集 湛空法師白みまりて澤妙寺に
こもりゐ侍りけるまゝに
本幡山君らゆきゝなれみてをや
本幡神社 本幡里路乃北にあり柳大明神と号ス
或記云一条乃北村ふ牛の頭より
神々ふ祈念しゝと験あらしし
やくなしと仰ふ云ふ祈乃神祇伯ふ
と答へ仰ありて祓禊して
仕まつりぬ止て仰ふと
うんや侍へくる
なびかじな柳の神もあれば
四中社 旧所民居の北一町許林の中にあり
尊勝山願行寺 本幡里にあり本尊阿弥陀佛ハ天照太神乃告命ふよりて
中本幡流義の宗祖那波安養大師と号ス
定親のふと法然上人滅後相別派倉光明寺乃祖良忠上人を師範として二宗
乃要義を修学しゝ年祇経て浴ふ帰て
と号にそれより年経て荒廃ふおよび
乃如く號祇改ゝ再建せるまこゝろ

濱藥師 同所里乃東にあり祇上寺と號ス本尊薬師佛ハ海濱出現ふ像
不焼地蔵 祇上寺乃南ふある観音堂ふ安置ス
を四方書瑞祇感して偕人賜し故ふ不焼地蔵と
坐像七尺許
今豊洞原ふあるをもふ
金岡宅 傳云画工金岡巨幡ふ住しゝ宅地ふ
天皇乃ふ勅みて姓を紀氏と譜ふ園深號ハ普天子ふ朝日阿闍梨
とらゝ宇多天皇仁和四年 勅ふ依ゝ所乃障子鴻儒乃像祇書に
旧記ニ曰
賢聖の障子ふある 八間各東四間みて一間 四人 馬周 房玄齢
二間 諸葛亮 魏徴 杜如晦
張良 三間 管仲 劉禹錫 子産 蕭何 伊尹 傳説 太公望 仲山甫
西四間みて一間 李青蓮 虞世南 杜預 張華 二間 四間 董仲舒 文翁
四間 賈誼 叔孫通 羊祜 楊雄 陳寔 班固 三間 蘇武 鄧玄 蕪武 倪寛
年家物語乃ふ孫殿乃畫圖の衝障子ふもむ
右明の月もるとや
本幡川 本幡里乃西ふあり宇治川の支流ふて六地蔵の
東そゝ宇治川ふ入一説宇治川の流をうく
拾遺 本ゝゝ川ふゝゝゝ言の葉もゝ名をゝゝむ濁つせも
三集 いふせん人乃心ふ本幡川月もゝゝも濁らせるゝ 家隆

木幡川

五箇庄 本幡より黄檗山へ至る間にて山門の内にあり 山門の内より右の方に五ツの庄あり 小野庄 本幡庄 伏見庄 宇治庄 是ら一体の中間にあれば号ありといえども 五箇庄の名のみ残りて 他の四庄の名は絶えたり

黄檗山萬福寺 五箇庄の内にあり 創建の後 屢火災に罹りしかども 其都度再興して 今に連綿たり 寺内の建物 編次の如し

○天王殿 山門の東上梠の地 西面にあり 其制 梁間三間 桁行四間 入口四方に扉あり 内に安置する所の尊像 左の如し

布袋像 堂の中央 西面して立像 四尺許

韋駄天像 布袋像の後 堂東面に安置 全身金色にして 金色の光明を放つ 四尺許

四天王像 四軀 左右に各一軀宛 全身金色 左の東 多門天 西 廣目天 右の東 持國天 東 増長天 堂内に安置 坐像 六尺許

○大雄寶殿 天王殿の東 西面して立像 六尺許

右 阿難 共に金色 立像 六尺許

迦葉 坐像 六尺許

○法堂 寶殿の後 西面にあり

○威徳殿 法堂の後 西面にあり 帝王将軍家の牌 祝安置 左右に建築 石階あり

○祖師堂 北の方 南面して 開山隠元禅師牌 堂内 ○選佛場 祖師堂の東 南面して 伽藍神像 倚子に憑り長二尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

韋駄天像 倚子に憑り長二尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

善財童子 右 八歳龍女 共に立像 二尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

韋駄天像 倚子に憑り長二尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

○禅悦堂 右堂の東 金奈羅像 中央の牖上に安置 二尺許 面色全身金色 一軀 向かう

韋尊地藏 坐像 一尺七寸許 面色全身金色 一軀 向かう 是は牖左右の牖信の牌を安置

○浴室 食堂の後 南向にあり 高泉和尚の代建る

開山堂 山門の内より右の方 隠元禅師 山下にあり

勅書額 堂内の欄間 後水尾院 勅書 額 隠元像 倚子に憑り長三尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

隠元碑 寿蔵の下梠の地東の方にあり 碑石 和泉石 高一丈許 基石亀形 碑銘の上の方篆書 次て楷書 碑銘 大日本國城州黄檗山萬福禅寺開山 特賜大光普照國師塔銘 碑銘 太子太師中極殿大學士燕山杜立徳拝撰 特賜大光普照國師隠元 琦老和尚塔銘 太子太師中極殿大學士燕山杜立徳拝撰 壮遊湖海洞徹法源 為黄檗祖乃臨済孫 化網總握玄要掀翻 天生真人無位而尊 須弥芥納巨浸毛呑 既而瑞世主張宗門 大哉師也名震帝閽 鞭撻龍象変化鯨鯢 迅機電掃熱喝雷奔 去来無住生死昜論 東来開化澤被三根 既過能事疾入泥洹 松岡一座蒼翠惟繁 浮圖永鎮正體長存 息光萬古普照乾坤 賜進士出身光禄太夫禮部尚書上柱國 贈太保諡文恪青城孫承沢持 厨子の憑 寶永六季歳次己丑四月穀旦

寿蔵 門内乃右面にあり 寿蔵の文字 緑青 塗 南面 窓戸の書 窓丸し 額え乃筆なり 隠元像 倚子に憑り 堂形六角 高一尺許 其内に安置 の不 截石 なり 其丈 小 曰

○寿蔵 門内乃右面にあり 寿蔵の文字 緑青 塗 南面 窓戸の書 窓丸し 額え乃筆なり 隠元像 倚子に憑り 堂形六角 高一尺許 其内に安置 の不 截石 なり 其丈 小 曰

勅書額 堂内の欄間 後水尾院 勅書 額 隠元像 倚子に憑り長三尺許 法衣服冕 坐禅堂に祀るの左右 脇侍 左の如し

朕聞 臨済之道 偏行天下 至天竜 雙径 光輝益盛 唯我日域 久之宗匠 幸黄檗隠元琦和尚 受請東来 立綱宗 闡揚済道 大光普照國師之號 以旌厥徳 欽哉故倫 寛文十三年 乳簡在朕心 特賜大光普照國師之号 以旌厥徳 欽哉故倫 寛文十三年 四月二日

蜻蛉石ハ宇治の里より後方の東三町許り竹藪の北の高サ一丈四尺ホド四尺許之ニ面ハ如意輪観音の像を彫付ケ傍ニ六人の化仏ありこれハある人冥土地獄より罪人を責る時乃大釜にくれ人の煮ル所まで呑て日輪巨口より吐出せし炎舎の舎と伝ル同人口を閉て退ぬ此蜻蛉石もまわりの田地と共ニ

○舍利殿 開山堂乃後ろにあり 後水尾帝ようり舍利殿と書せる額 勅書額 堂内に掲ぐ 後水尾院これ尚ホ贈はり勅書ありし其文に曰

北天曽自奉南山古佛真身傳世間十萬里程霊骨暖三千年後異光斑宋皇述讃感生相源将頃心欽定顔晨夕舉々服膺久壁峯永仰五雲間

佛舍利贈師寛文巳酉十月朔日 隠元禪師

舍利塔 高サ二尺餘 金被ケて俗ニ舍利五粒ト稱ス内ニ脇士観音 坐像ハ九寸許リニて塔の左ニ安置ス 畫圖絵地法服沸長二尺四五十拂子を同壇右ニ持したふ而ひ跨人 土佐将監乃筆

同壇 左後水尾院宸影 畫圖絵地 佛殿乃號山上二町許リあり一切經印板庫ニ藏ム

普化墓 黄檗門前の南二町ホあり 普化より四町許南宇治路の右ホあり 永氏巻宇治十帖乃内浮舟乃段ニ出ル

天八ニ俗ニ故ミ今荒廃ニ及ヒ化墳ハ僅ニ一抔ノ土ニ過ス 原雪舟ノ筆ト傳フル水墨畫アリ 有紀卿ノ親鸞聖人ノ父ナリト 本願寺傳記ホ見ヘタリ

宗風を暴ふて事天八を愛ス 四方ホ遊人世乃人さゝ良房と云者ノ墳ニ擬セリ

浮舟宮 普化より西町計南宇治路の右ホあり 永氏巻宇治十帖乃内浮舟乃段ニ出ル

三室戸山 三室戸寺の後ホ有 範頼墓 三室戸寺の内ホあり 有紀卿ノ親鸞聖人の父ナリ 本願寺傳記ホ見ヘタリ

万葉 ゆくへなき空ニつめたきわれをつゝまゝを 大江維

頓阿庵 三室戸の麓ニあり 頓阿ハ歌人ニて世を宇治山乃峯ニ松風 頓阿

草庵集 世乃中をのがうき後ハ宇治山の麓ニ三室戸の庵ニそ

さびしさハ思ひこそ出ぬ宇治山乃峯ニ松風

宇治 いにしへハ兎道と書ク應神天皇の皇子菟道稚郎皇子此地ニ住シ玉ヒし地ニて子山城國宇治郡ニあり 兆域東西十二町 南北十二町 守戸三烟ヲ今の離宮ハ慶安ニ皇子乃靈祠ホ祀リ。宇治ハ京師より四里ヲ都乃巽ニあり名高キ名蹟かずくあり 茶ハ名産ニて 宇治乃茶ハ多ク乃屋乃。阿古尓乃原ニ永ク古ヘより乃名称を今絶ヘ ホし

古今著聞集曰 永極大慶の門前宇治ハ白河院幸ありし時ニ興ありて今一日逗留あるべきよしを申さるゝ給ハて明日還幸あるべき花洛ハ大白の方ホあれど宇治ハ東ホあれば今夜ハ此所ニて夜を明すべきよし仰ありければ 源大納言雅俊卿 宇治の名所ニ心を留て 月ハ有明ニ成ぬれど 山の端ハ猶夜深しと 詠ぜられければ 殿下ハ此由を奏聞を仰て 又夜深ハ還御延引し給ふ 殿下感悦あり人々ハ

宇治十二景

春岸酥醸　清湍螢火
朝日露暉　薄暮柴舟
扇芝孤松　三室紅楓
橋姫水社　長橋暁雪
浮船古祠　釣殿夜月
　　興聖晩鐘

宇治橋　初めハ孝徳天皇乃御宇大化二年ニ道昭和尚これを造ると日本紀ニみえたり。此橋ハ丑寅より未申ニ架る。長サ八十二間五尺五寸。橋乃東爪ハ宇治郡、西ハ久世郡なり。近年宝暦六年山城近江洪水乃時此橋堕流すといへども、故ニ今仮橋をかくる。

宇治橋銘　扶桑略記ニ載る。撰者詳ならず。

沉々横流　其疾如箭　條々往人　倚騎成市　欲迯重次
人馬亡命　從古至今　莫知杭葦　世有釋子　名曰道昭
大化元年　丙午之歳　攝立此橋　濟度人畜　即因微善
爰發大願　結因此橋　成果彼折　法界衆生　普同此願
夢裡空中　導其昔縁

壬二集　宇治橋や夜半乃河風更ふくる下ゆく水のをとそさえわたりて　家隆

續後拾遺　弘安元年宇治橋供養の日亀山院御幸ありけるに　後光明照院入道関白
行末もなをたえせしと思ふかな今日乃御幸の跡をのこして

されば橋ハ秦の時咸陽ニ都して渭橋を造りて漢ハ便門橋を作る。張良ハ圯橋ニして兵書を授り、相如ハ橋柱ニ題して駟馬乃車に乗る。此橋ハ桓武帝乃御時架し初しより南方乃咽喉とす。それより年経て治承ニハ此橋を断て三井の法師等両岸乃大軍を驚し、元暦ニハ又橋を引て先陣を争ふ。承久乃乱及び度々の戦ひニ宇治勢田乃橋を引かれし事かぞへかたし。物換つて星移つて豊臣乃御代ニハ三の間の水を賞し、霞ニおつる柴舟を山吹の瀬をわたるやミ、川岸の絶くニ釣する舟の波ニ浮ミあるを、岩間ニよする氷魚を汲ミ、河辺ニ掉さしめぐりて蛍の飛かふを興じ、美景窈窕として山水ハ清暉を含ミ、虹乃影ハ河流ニ架るを庭ニ、南方の奇観ニして象を鶏風ニとりて李冰が造れる七星橋ともいひつべし。

朝日山　離宮八幡興聖寺の後山といふ。宇治里よりの東ニして此峯より朝日出て、春の日乃遅きとかなる、又中秋ニも月を賞して清光川の面ニ照そひて銀色三千界乃面影なるべし。

新古　麓をバ宇治乃川霧立こめて雲井ニ見ゆる朝日山かな　権大納言公実

續古　紅葉散る山ハ朝日乃色ながらしぐれてくだる宇治川波　西園寺入道前太政大臣

華載　朝日山麓の里乃卯花をさらせる布と思ひけるかな　左京大夫顕輔

喜撰嶽

喜撰洞
興聖寺
宇治川

鬼道
怒日の祝ま
喜撰嶽
宇治より
二里ばかりて
槇川村乃
ゆきゝの頂ふ
高くそびえ
嶺峯ありて
其中ふたつ並
のごとくの片岩
うるわしき
ふもとあり
苔蒸して
分明ならず

平等院

宇治橋の南にあり　橋門を小西にあして嶺を中納言俊房卿の家
今其趾遺墟僅に九寺院の数に入れり　仏寺故事創しより云々
やしきにあるふ覚悟あり　公任卿いまだ弱冠にして同車の袴土ぬを西明寺天空和尚に
等院の門を小西にあうつして無双の高名ありと感しぐらは此
扇芝　頼政自害の所之具餘乃佛岡前編ふ見くれい

埋もれ木の花や扇の芝

當寺乃建立永承七年三月宇治関白頼通公之諸堂炎上之事を左平
記ふ建武の頃楠新田両将宇治ふ向ふ正成敵ふ仏勝く陣平等
院乃かたら一宇も残らず焼払ふ　焼ぬ
寶蔵ふちふ宝上ともしく積置ふ小門
より本堂ふ至りても扉を開ふ
足故ふ本堂ふ初乃建立之
堂塔佛閣むかい麗々しく
ふ建られ治暦二年ふ
楼を建らはよう　旧記ふ曰宇治殿
忙の中苔葛蒲　法の師　乃宝物ふ納むとう今世ふ伝ふ
五十七巻の物語の繪ふ
源氏物語乃絵ふ
ふ

法皇堂

宇治乃町人家の間ふあり　法皇乃建立之
前乃小嶺の江ふ
故ふ月を愛ふ
て釣月と号く
れ地ふ
されを
信長乃為ふ滅
石庵　（此所ふある
宇治殿の墓ふ
栗子山　宇治一の
て落首を

釣月

嶺乃地名ふ
あり　里故ふ月
乃建立之
詳ふ
次ふ所四面
東ふ
勝地ふ
古人ふ此
月花
鈍
住境ふして一
豊を楽ふ
公信長ふ
敬ふ
東本願寺の
上人の息
照良公の

栗子山

宇治一の
より甲の方十
町ばかりふあり
むかし
大衆と戦て勝利
故
落ふ

神明宮

右の旧山ふあり故ふ神明山とふらふ
雨乃宮　風乃宮　日社
住吉のやしろ　稲荷　祇天乃やしろ
所乃　請いむ　刺史服部式部
故過ふ　化人現し形相
地ふ神明を勧請せ天下倍安泰ふ奏し
朝廷ふ
愛蜀ふ

蒼苔法師栗子山そこらぐそこらく

物具をこぐぞこらく

伊勢国外の西宮故ふ傳
稲荷　祇天乃やしろ
住吉のやしろ
刺史服部式部　尉俊章
行者れ
地ふ神明を勧請せ天下倍安泰ふ奏し
朝廷ふ
愛蜀ふ

田原

東京都豊島区駒込千駄木町百拾番地
坪内雄蔵

田原　宇治橋より午未の方二里ばかりにあり　禅定寺　熱田　平岡　大道寺　稼塚　南林　荒木　名村　荒木村民家のふるき墓あり　禅定寺　月舟和尚の筆なり　本尊十一面観音立像三尺許　脇士大師堂と号して大師堂放宇ありしといふ　大師堂　額を普門閣と書しく　額を普門閣と書しく

大師堂　禅定寺　月舟和尚の筆なり　本尊十一面観音立像三尺許　脇士大師堂と号して大師堂放宇ありしといふ　大師堂　額を普門閣と書しく　額を普門閣と書しく

八幡宮　田原　皇子乃神廟の上ふあり　小社なり　石清水　平岡村民居の西南林乃中にあり　石清水

三宮　例祭九月一日神輿一基あり　岩本村民家のふるき墓あり　岩本村民居の西南林乃中にあり　岩本村民居の西南林乃中にあり

亀井山真言院　荒木村民居のあり　荒木村民居のあり　荒木村民居のあり　荒木村民居のあり

亀井　旧所弘法大師の設なりし所なり　乃ち開基弘法大師之　時中院通村卿より賜るもの　題　古寺再昌の祝

乃ち開基弘法大師之　乃ち開基弘法大師之　乃ち開基弘法大師之　乃ち開基弘法大師之

古代の林をこめそたるうんそ深紀若乃ふこもれり之

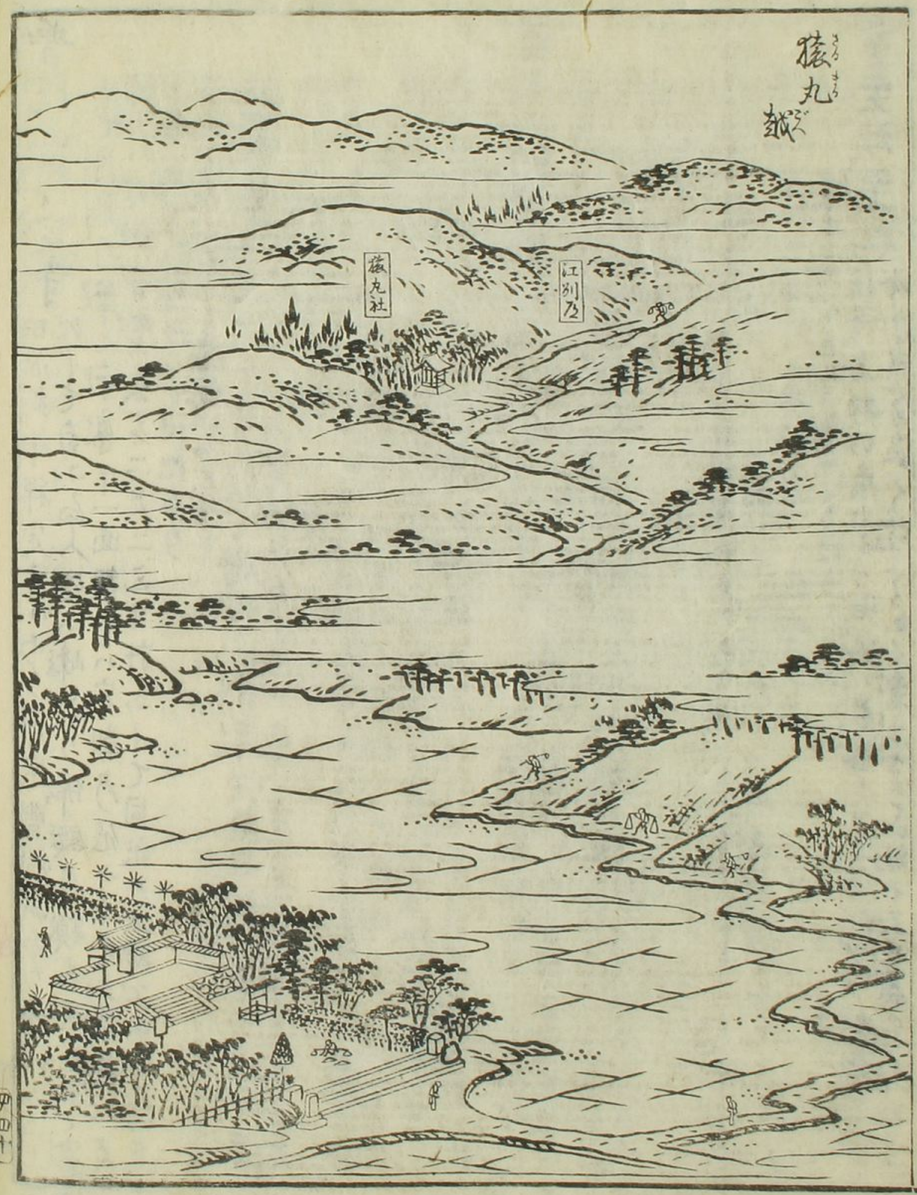
普陀山禅定寺　田原郷中禅定寺ふあり　禅宗曹洞派あり　にして面ふ向人後ふ峰あり　仏殿乃額を園通閣と書して月舟乃筆之本尊十一面観音立像三尺許　脇士ハ文殊　普賢長四尺二寸許あり　仏像長四尺二寸許あり　王像長四尺二寸許あり　王像長四尺二寸許あり　希代の霊宝にて應験いちじるし　希代の霊宝にて應験いちじるし　地蔵堂　仏殿乃ふうにあり　延命地蔵尊　弘安二仏ハ彫刻にて坐像　五尺ばかりの堂　初冬ある所ハ毎乃方二町ばかり　今地蔵溪　あるいハ水溪とも号し　当寺より一町餘うあり　四隣乃宮ふあり　しばみ　知足院殿下大檀越として　俗あり　開基を平崇上人　東大寺よりそ宗旨ハ華厳乃　真言放氣ふり　中興ハ曹洞乃　舟和尚　みて今の寺とく再建　しかるなり

巌平山龍安寺　洞郷名村の民家ふやの方ふあり　千手観音立像七寸許　計開基の通えれ尚書附年久敷荒　廃みおりふ近世再建と舊地ハ山所の異のら二四町ばかりみて奇岩　あり俗ふらんし放大岩原と号ふ　通えれ尚経王放　ぬらふあり　所之

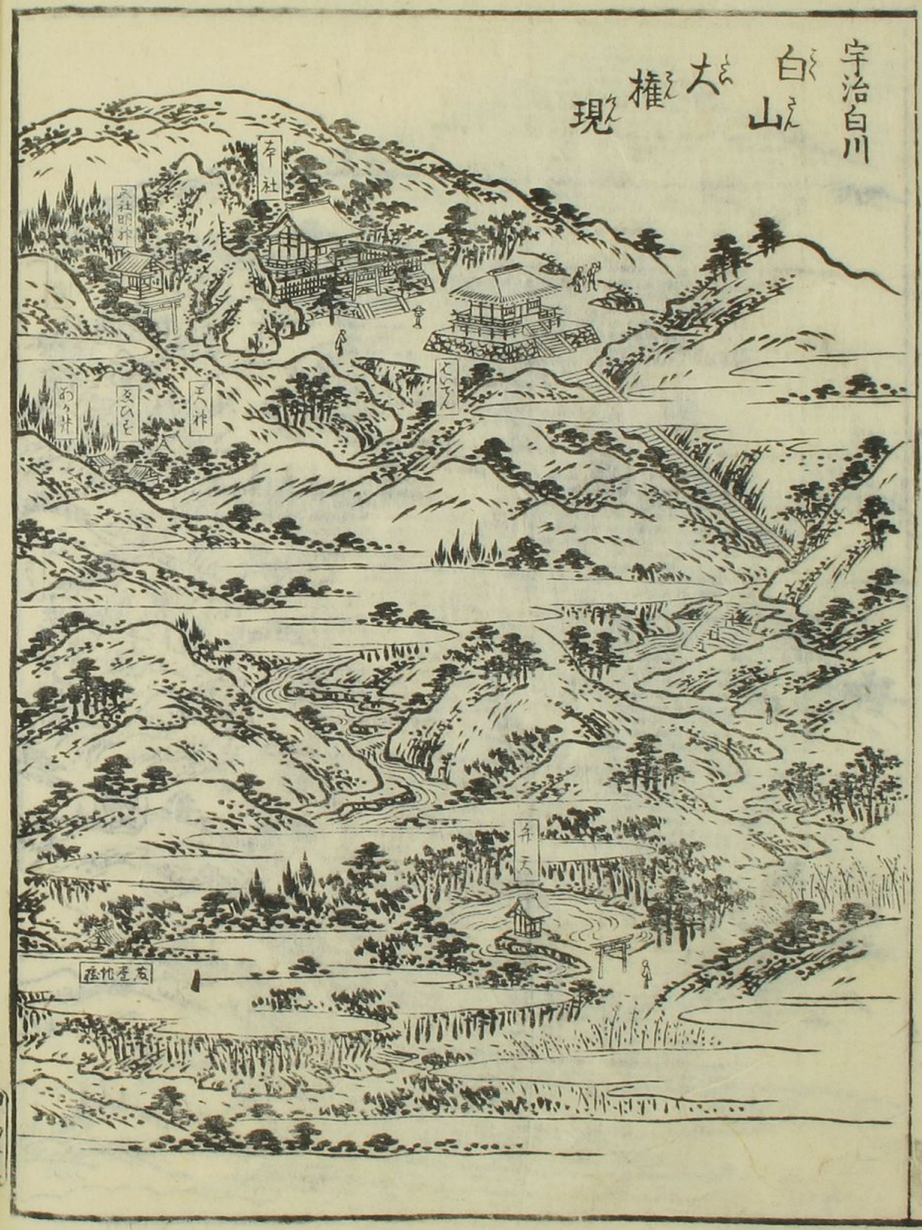
寂光山善福寺　旧所民家乃南の方ふあり　僧三尺ハ寸厨子小安座　洋あり　相好いと殊勝みて　そうぞうたる明山寺の本尊なり　そうぞうたる明山寺の本尊なり　絶妙なり

黄栗焼栗林　旧郷名村の南ふあり　今ふおふらぬく焼栗生ふらん城七不思議の其一なり

猿寺
山王
仏殿
禅定寺村


猿丸社
江別乃

鷲峯山行場


寺社
社務所
天神
文殊
鐘楼
弁天
弁天堂
経供養所

大神宮
寺社
金色院
方丈
白川
石川

巨掠堤　大和街道みて伏見豊後橋より巨掠堤まで九五十町乃堤
秀吉公の時築ゆへ初めは宇治川乃ながれ落入て流し御座候一面の入江にて宇治橋より伏見川淀乃東のそいまで巨掠堤と唱へ候
経て宇治橋より伏見へ渡る一つの大橋絶て本幡里より囲之堤なし
廣所ゆへ類

巨掠神社　本社のおもむき巨掠里街道のうへにあり土人生土神と称す
一基あり傳云當社そもそも延喜式に出る栗神社是なり
所乃一枝を採ふもし祟置ことそ当所の枝
和有み給に
奇宇治山乃紅葉の色をうつす式をそこの森におつるかよ　左近

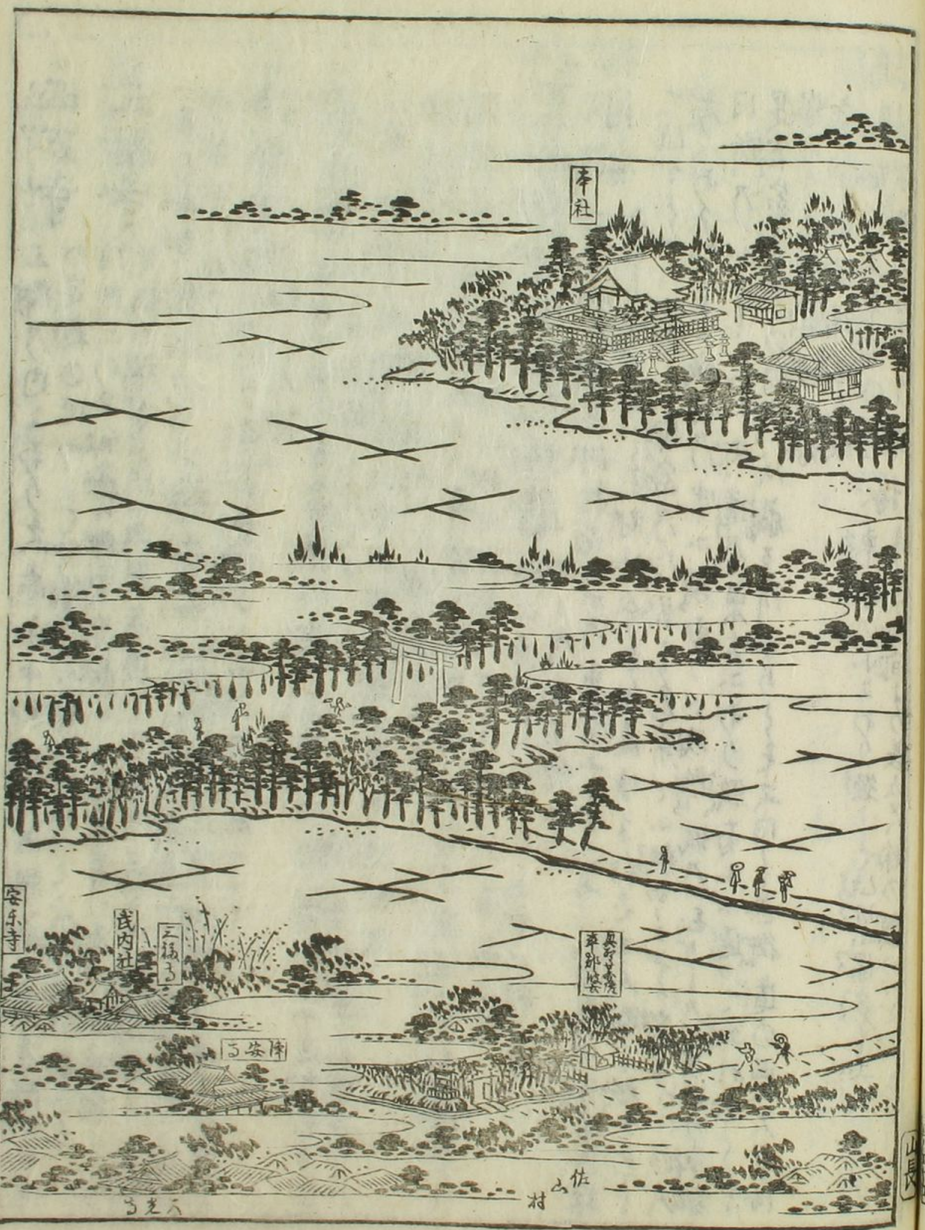
伊勢田神社　巨掠乃甲伊勢田村にあり延喜式出後世梵天王神と称す
土人生土神と称す例祭ハ九月九日なり

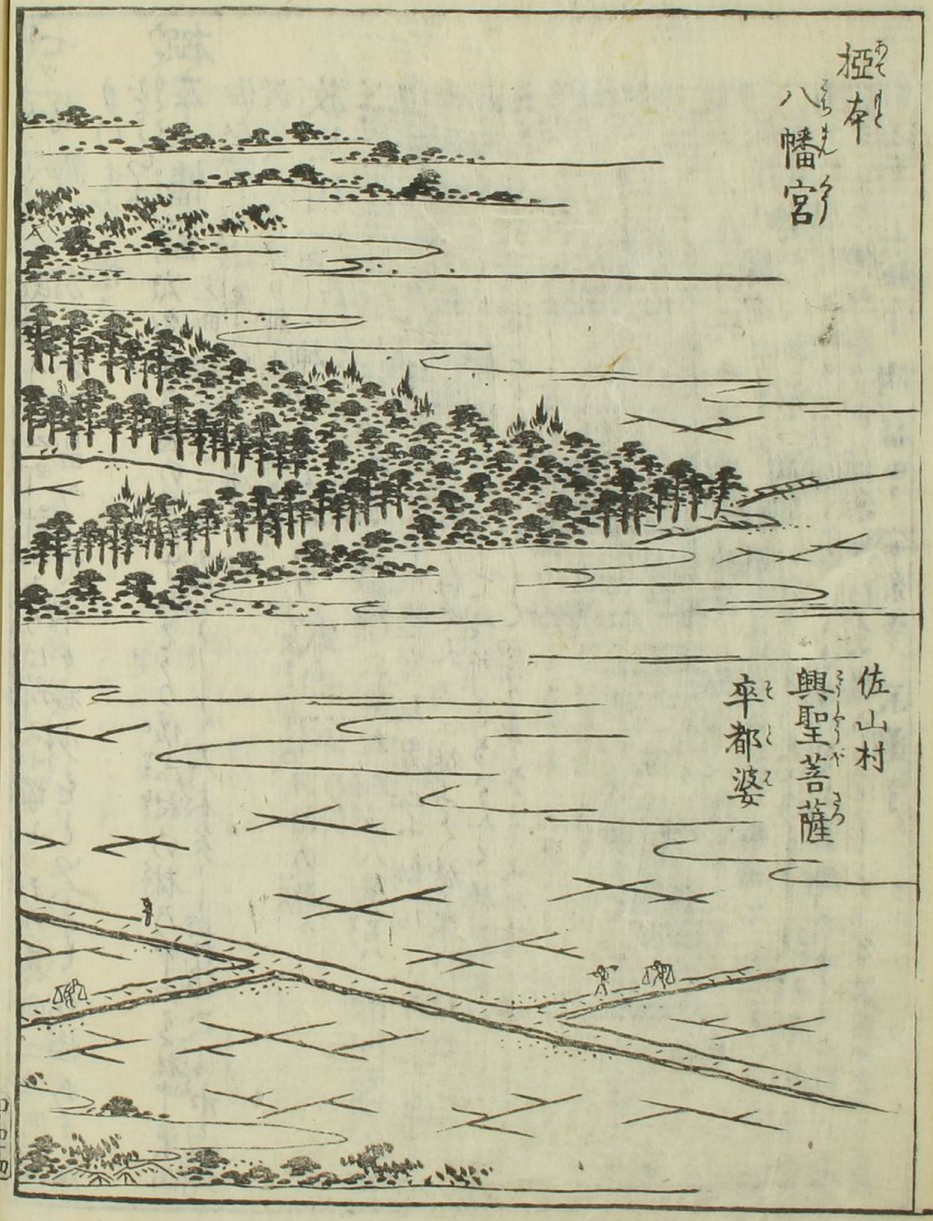
栗隈天神社　伊勢田乃異名大久保村にあり順礼名ハ載なり久世郡西栗隈
里是なり栗神天満天神と称す延喜式出後世梵天王神と称す例祭ハ九月九日なり
てん満神の社多し是則延喜式の栗神天神御名ハかりなりしかとも神號そいまへの称なし用
なり土人ともを辨をしてみる天満天神にて緻喜郷の内百萬の内
やしろは類ひなり。古社所ハ栗隈三宅とよめりしかるふ
そうこはの二宅と所ハ杜小森ハしまりなふ
あこたおのくらふ帝宅
未本山ふをを乃田ゆふそる帝宅なり我ひとりそ見つる遊行　長能

七ツ塚　大久保民家乃西江町詰ふあり仏所七ツあり其間二三町放
隔つ四方なる田畠みて年々減少をしとも考怪あり放
りて案壇さ

極本八幡宮　大久保乃西の方二十町ほり佐山村の林乃中にる林中東西
三町餘南北二町森にして大木多し系神ともいふ迎郷
佐古村田林等乃生土神と
例祭九月九日神輿二基あり

放生川　いまへ神殿の東にあり武内祠はねの乾ふ
今埋んで田とする
幡宮鎮坐記ふ曰山城國久世郡二郷村極本八幡宮ハ清和天皇貞宇
則観乃ふ教ゑ尚宇佐八幡宮より勅使ありけれ尚ゆ從て
神職本の頭橋良基勅ふ
其後此二郷乃靜境を愛して行所とそうん
題ふ男ふ潜ふる事日
極本乃ありて氏戸軒をはらひ初て豊饒の祈をなし
時ゑ崇徳院帝宇治二年の二月男山鴻峯より遥ふ
来ては捌を照を一七日の後山所乃往人
八幡宮ハ北ゑ神殿放
神光瑞現乃北ゑ神殿放
二源院にて應保二年ゑ
一等放進めく極本一品宮
ありて橋氏をくく宮司
宮寺ありて僧俗朝夕の法楽
西方寺　三福寺


奉社
安乐寺
武内社
佐山村


極楽寺八幡宮
佐山村
興聖菩薩
卒都婆

○西方寺　三鍬乃内とあり久壽年中始一上人の開く所之本尊阿弥陀佛
い定朝の作ゝして坐像二尺餘之又如一上人自作の像あり
○三福寺　は所ゝある事ゝ基の興
す仍て詳す。興聖菩薩ハ一生の中五百寺を造営して自
一基乃率都婆を立ゝ
今獣寺にある
○浄福寺　佐山ゝあり本尊観
立像二尺許
○薬蓮寺　林村ゝあり本尊薬師佛ゝ定朝の作
三像小鍛治の作　獅子
長九寸五分
○安楽寺　右旧所ゝあり本尊
像二像院の
興聖菩薩殺生制誡塔婆　佐山東の
現ゝ所少方
指月塚　大久保の
あり一所
ては
考へ
は所乃
墨官家
塚あり
うべし
鴻嶋　塚の
子丑の

久世神社　大和街道久世の
ふ載ゝる久世神社
乃やしろの草かきおそと
三田坂　久世の南十四五町
り一
は号
足うる
久世鷺坂　久世のむら
大和街道
久世の鷺坂
御集
雪ふまじ皆をうへて白
元久二年宇治乃
大木
山城の久世里の
小笹峯　は所と
詠ゝる
堀貞昌
白雪ハ鷺坂山をおそふれど小笹ヶ峯ゝ雪降ゝあり　敦季
長池舊趾　長池村民居の東小三町
埋て田とう
ゝ小和遺
坂なて社
あり堅牢
鍬あり堅牢採ゝ大和國布留社ゝ納むとゝ今布留鍬と号て神寶ゝあり

其外朱沙多くあり

冨野天神宮　長池村の中にあり冨野民居の艮林の中にあり祭神詳ならず已上土人生土神と云例祭九月廿日神輿一基あり

水主社　冨野の西十町許水主村民居のうしとらの森の中にあり祭神延喜式名帳曰久世郡水主神十座並に大月次新嘗就中水主坐天照御魂神二伴曰しらく山背大國魂命神二座新嘗預るとえたり社家説曰加茂皇太神宮別雷神なり土人生土神と云例祭九月二日所と相違と土人生土神と云

白釋迦堂　水主村人家の間にあり本尊釋迦佛聖徳太子の作にして立像長八尺許と云本尊故土人白釋迦と称すと中須莊叢林に移るよって此号故称すと傳云此地いまだしかと詳ならず

梵天宮　市野辺の南の多賀へ村の卯辰の間にあり竪額鳥居あり梵天社號土人誤て来ると云々例祭九月二日あり名義詳ならず

地藏池　王ねのこ堤の北にあり池中濱池の迎ひの石地藏を安置す故名とす

十六松　長池の南大和街道の東側にあり一へい大木の松十六本あり

椎尾山　今綾の中村の卯辰の間にあり竪額鳥居あり梵天むく毛明山寺此所にあり末寺一名

椎尾瀧　同所山中にあり一名唐櫃瀧ともいふ

玉水井　長池村南一里半にあり森の中にあり清泉こんこんとして湧出る事夥し玉水里人汲用ふ

ふかき井にあらねど玉水とて名高き泉なり

小野篁の詩

小野の塔頭のさゝら井のさゝら井の方路乃中み有ける玉水とて名高き泉なり

ほとゝぎすなくや五月のあやめ草あやめも知ぬ恋もするかな

邑葉集曰　山城ふ井堤乃柳絶つた清水

玉水とてゆきゝの人多し

千載名

冬ごもりたえだえ氷る玉水のしたにや人の音なかるらん

玉吟

さゝ人も今いみじくさかりなる玉の井の水　家隆

掘川帯

玉れ井ふさをる波うれしく

原の花をそ芝れそ

師侍

井堤左大臣旧蹟　玉水里の巽二町ばかり石垣村乃西上村のむかい山の麓にあり

井堤左大臣旧蹟　西南晴うしろ高堤乃北ある堅しく柳と石垣村乃西上村のむかい山の麓にあり

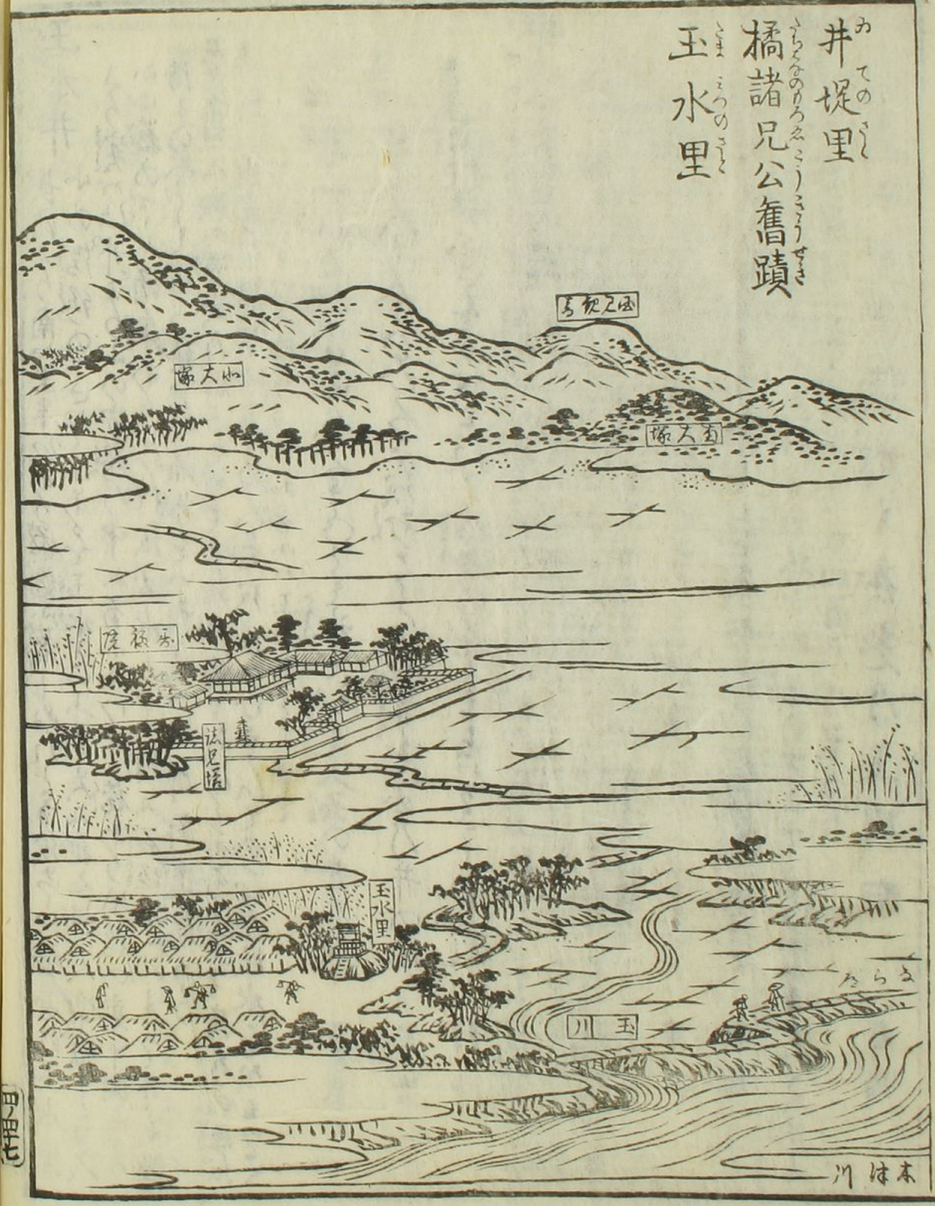
乃字なと大門といふ堅諸兄公乃旧跡ありて井堤寺の地ありと

家集　さうそやむ年なりけりて山吹の井堤乃山吹盛なるを　忠見

井堤川　あらい玉川井堤乃山吹盛なるを

本津川落入れ今玉水も夜光乃玉川や　葬福

井堤里
橘諸兄公舊蹟
玉水里



玉水も
くめれとも
うつろふ
秋かな

吾東

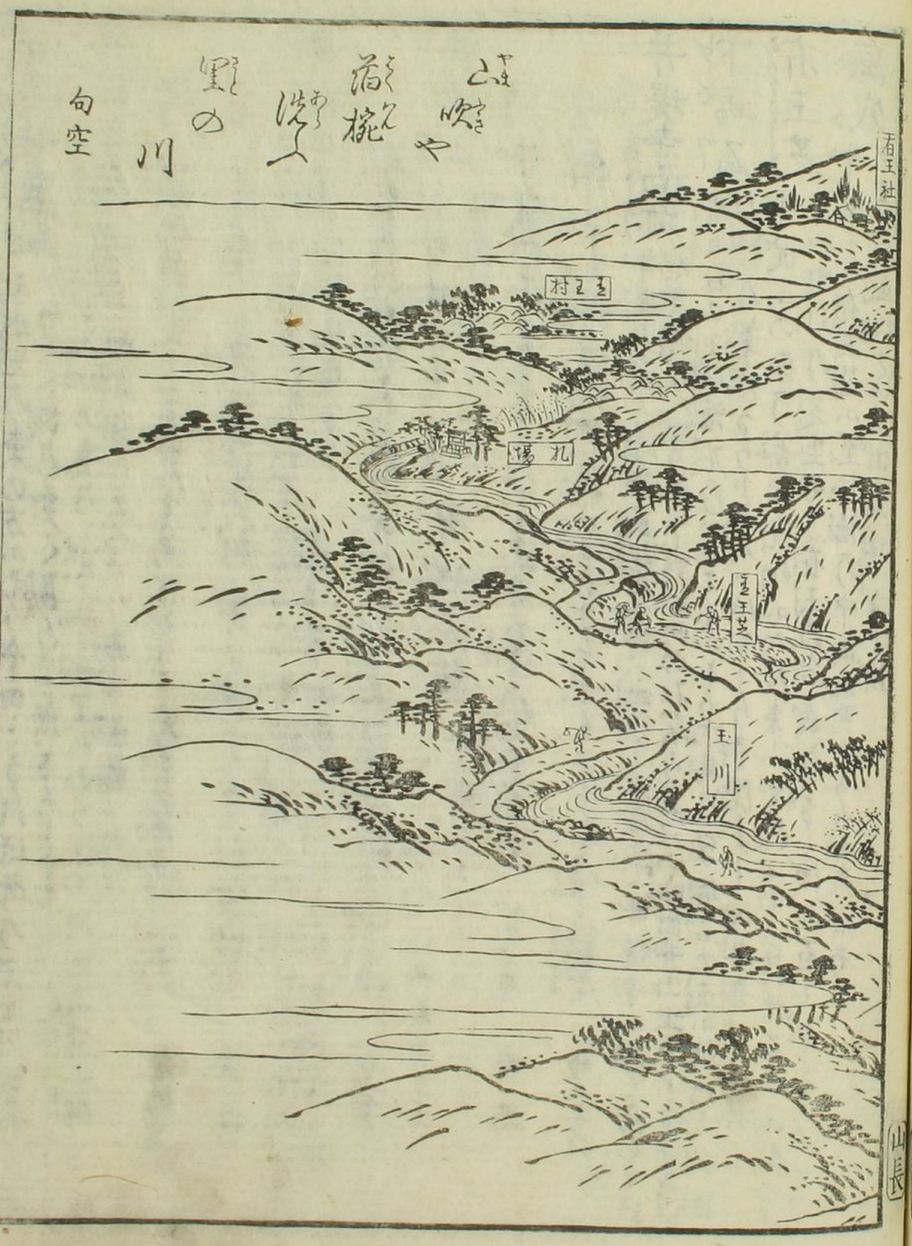
井堤(いのて)は玉川(たまがわ)の流(ながれ)をくみ
水車(すいしゃ)数(かず)めぐらし昼夜(ちゅうや)
碓(うす)数踏(ふま)せ茶(ちゃ)数粉(こ)
ひき春(つき)をまち製(せい)茶
粉(こ)数挽(ひき)わりあるい
ろくの粉(こ)数着
りせる具車(ぐるま)のユミ
化(ばけ)ユ異(い)うり足(あし)うみ
の勢(いきお)ひみーく
山海経(せんがいきょう)ニ
水伯神(すいはくしん)の
ちうくし
あるくし

羽車(はぐるま)

井堤山（いでやま）
風穴（かざあな）
玉川（たまがわ）
有王芝（ありおうのしば）

吹（ふき）や
滝（たき）に
桜（さくら）
散（ちる）
る
川
の
上

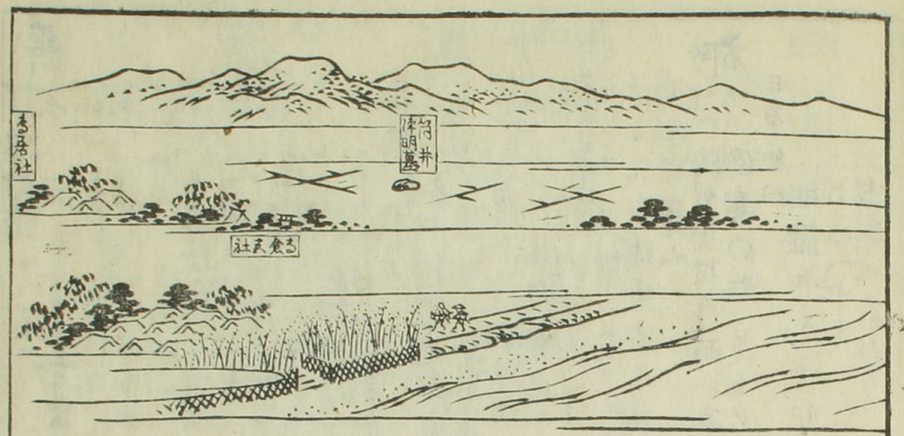
白空



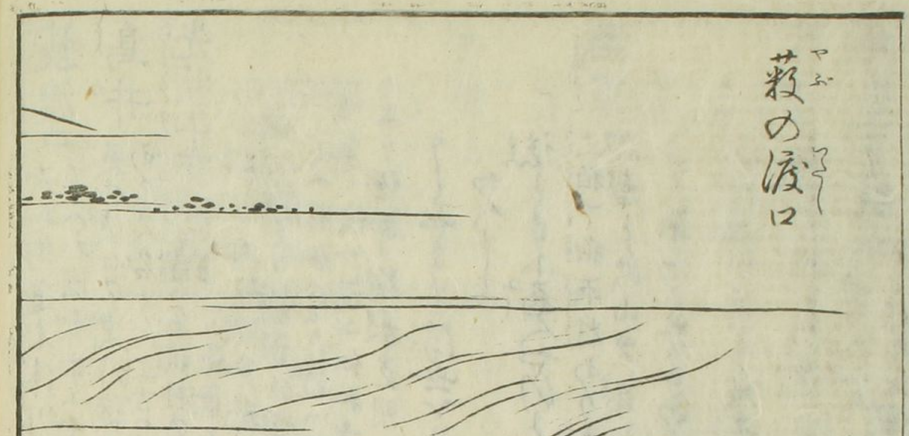
井堤蛙舊趾　玉水里乃東の方にあり今田となれり此所乃字を飛呂萩とよ
井堤茶藨舊蹟　玉水の東乃小下井堤里にあり又玉川のあなた
御集　山吹の花れちりしく井堤乃里人
三集　ちる花ちりと井堤の里人もわれてぞくんと侘れむ　家隆
井堤中路　井堤里にあり古乃大和大路なり
名寄　春日社　井堤乃上二町許にあり社所乃傳藍の紋あり寺号詳ならず
人もとをふみそめそのまゝ月もるる井堤の中乃　中務
井堤山　上井堤のむかしの井堤山ふかみ
名寄　井堤石橋　今絶てなし
哥枕　井堤のふるき事ども
ゑてふし井堤の宮柄白玉立ぶへくそ　好忠
井堤寺旧跡　井堤山にあり冷泉家記曰小野小町六十九歳にて井堤寺に於て死をとぐ云々
下馬石　春日社の下乃方乃字截石の面に鐫付たる弘法大師乃筆乃ようと寺院多し一理餘ある事也
有王芝　井堤山の南乃谷にあり其地右乃山腹にあり右王の名義詳ならず
風穴　井堤より有王芝に至る路乃中間三町とうふ大岩あり
出ると云風穴とよ田舎乃人乃詳ならず

藪渡口　大和街道本街乃渡口にて大和國歌姫に至る道乃傍にあり
鳥井　萩の渡口の東乃方にあり
光明山寺舊蹟　石垣村の西綺田乃うち古乃佛閣乃礎存に其地乃上にあり
あり其中間数國見嶽と云
近世此地より観音の像現し
祠をたて法仏を安乃ごとし
詳ならず一説に仁和寺の寛
金葉　僧都猿基　光明山乃麓をぬとゆてほうらる
うらやまし浮世を出ていく井くたる爰の月をそうらん　橘社元

法ふかき西へやりと月乗の
上狛下狛兩村あり委をお
名産　山里真菰あり
狛里　詠
さゝあめのくなるある風のつゝそも上菅ちうらん狛ねもこ　三位國章
玉吟　五月雨いとゝ泉川狛山乃ふもとをそめわたる　僧都猿基
夫木　ふをこゑるうみもしらく狛野の里乃燈ろかな　家隆
神童寺越　狛里の艮にあり四面ふかし古昔神童寺あり則神童ち坂所乃名ふたゝ山道あり笠置坂経て伊賀上野に出る　公仕



藪の渡口



たゝ雲ふつゝ紀の系乃久慶煙も日久を宮ふるゝ

白山権現社 段々良の西上村ふあり仁所の字仮佛所内としてよ天福のと近衛基實公乃男摂政関白基通公御ゆゝし普賢寺殿と号に其旧詠うゝん上村乃大仏堂の号則普賢寺としつゝて基通公の建立之ゝ普賢寺殿もと卿の濕舎の地うゝん後考あるべし

天王 普賢寺殿乃西の止ふあり村社ふ久ゝう

天王社お縁ふり久ゝう

草内渡口 本津川故むがみてう玉水ふ至ほ仁渡口を平記ふ出草内村を高本のむがゝ十餘町ふあり

飯岡草内 乃卯辰の方ふあり仁岡いみゝへ笠置仁ゐうの禁にあり

若王寺 下狛民居乃南ふあり昔ゝ寺ふ本尊阿弥陀佛若一王ふの神宮寺ゝ今俗仁ふれ僧腸士い千手観音立像二尺計ゝ智證大師自作の像あり坐像二尺ゝ計

若一王子社 佛殿の稲荷社 旧所ふあり

傳云當寺ハ二井乃智證大師の開基ゝて古の物置山麓々ゝうゝ最勝寺の道ゐ尚仁寺の座主ゝうゝ仁ゆふ野僧正ゝて犯うゝ

圓満院塔 若王寺の小田乃中ふあり五輪高サ一丈計圓満院ハ二井乃座主ゝ只園備院ゝて祢ゝて靈号坂本ゝて

藏岡山天神宮 若王寺乃西二町計ふあり例祭ハ九月十一日

稲八間 下狛乃坤ふあり民居を南小ゝ分てゝ 小稲八間 南稲間とゝ

武内社 南稲八間にあり祢武内宿祢ゝ仁例祭ハ九月九日

薪村 淀大橋より巽乃方二里許ふあり 乃ゝ口。 たゝ良。上下 上津屋。 東西ゝあり 岩田。 森ふ至ほ是則ち 大和街道 ゝう仁ゆふ 十町餘ふあり 地撓ゝし 薪村ハ造林業ゝん 南ふ至まゝ興戸 高本 越津 菱田 僧房 祝園 太師 故征 大和

藥師堂 薪の坤二十町計 神佛ふ 南備との 化之坐像二尺餘仁堂ゝうゝめり 神右倶の 薬師佛ふ 長覚大師の 作ふあり 仁所ゝう 心懸ふ 至ほ又仁所ゝう 松井故征て 志水ふ至ほ 新の 薪ふ

天神社 薪の南ふ鎮ゝ天神社 祭神ふ 菅公ふあり 是ゝう 大仁 南ふ至まゝ興戸 高本 越津 菱田 僧房 祝園 太師 故征 大和

郡塚 旧所里乃艮寄町ゝう田乃中ふあり 上ふ古松ありゝをゝんと 郡塚ゝう 高郡驗のゝあ 祭ありゝ

普賢寺溪 興戸乃南二十町計ふあり仁所の總名みゝて 溪を西ゝう 東ふいゝて 中みふあり 其間の里ハ高本。 段々良。 上村。 水取。 高船。 内田。 方ゝ大和街道 ゝう仁ゆふ 天王村等之

都谷 段々良村乃西小五町計ふあり人王二十七代 継體天皇の皇居ありし 日本紀曰 継體五年辛卯十月 都坂山 清の 旧城ふ遷をゝ仁地ふ皇居ありし 中瀬ふおよ 流ゝ 御物 故下 等信て 御調 おそも公向下司 喜の都是ゝう仁城國ふ於て皇居乃創之

祝園
春日社

京道坂
埋む枯乃
落葉う面

下猶
若王寺

衆雲

祝園　稲荷心間乃東南ふあり民居大和街道の東西ふあり祇園乃名義ハ神武天皇の御宇逆臣長髓彦叛滅しめんとし給ふ軍あり今乃本津川を竟て訶夫羅山ふ陣して訶夫羅の霊をまつり止ッて土民を悩ますを故ふその霊を祀りしめんとし給ひ鎮ふ乃義するふよりて名とせり園ハ其社地を

いふ所の民俗毎年正月初乃申日ふ麦乃餅を製して其餅を食物ふ祝調るふし一切の物忌禁しん神ふ供ふるふし又同郡平尾綺田ふも毎年正月九日ハ姪子尊廟田ふ祭礼ありて祇民ハ戸ふ国て悪を斉を是ふ忌籠の社奉として子ら著を次磨明石名所圖會ふ委しく出所乃風俗なり

祝園社　従五位上祇援くと延喜式ふ出今詳ならず次ニ代實録曰祝園神ふ所乃民居乃小ふあり社祇園神ふ同日大宮土人生土神と次例祭を

春日社　旧九月廿日之一説ふ社地ふ居をるより祇園神ふ同日ふ祭礼ありと

大塚　高五間巡十二間あり

土師村　乃名ハ従園乃南一里ふあり土師氏の人居をる所の地ふ土師を改ふ菅原となり天穂日命十四世の孫野見宿禰ハ其後天應元年菅祖の後能遠江介ふ至ッて姓を改ふ菅原となり

相楽　所乃名ハ則相楽郡乃内なり山城大和の国境ふあり大和の方ふ山城ふ入ハ此所ふ国神の壊之土師の西三町許ふ山長

本津川　いにしへの呼津加和と訓を一名泉川ありひい輪韓川ともしるす上古ハ挑川とうけく日本紀曰那羅山祇踰く輪韓川ふ進ミ到るく桓安原と川祇祇でありれ祇地川祇改やすけて挑川となり今祇川といふを訛るなり

古今　ふこいてくみの社系名ハ

千載　泉川の水のまさるこのふつけふ志ふ流れ渡る名ハ朽ちず

上古橋あり　延喜式出　泉川橋

樺井渡　泉川のワたりなり

延喜式出

大智寺　本津乃大路の北ゞ二町ふあり宗旨律ふして本尊文殊菩薩又脇侍ハ普賢の化の尼ふ義む富寺ハむかし泉川乃橋破壊して次郎ハ往来守安とて時々老女故川ふ望ふ出ふ人ハ大ふ驚ふ安置ふ則上人祇風祖ゆゑしふ奉事とし大智寺

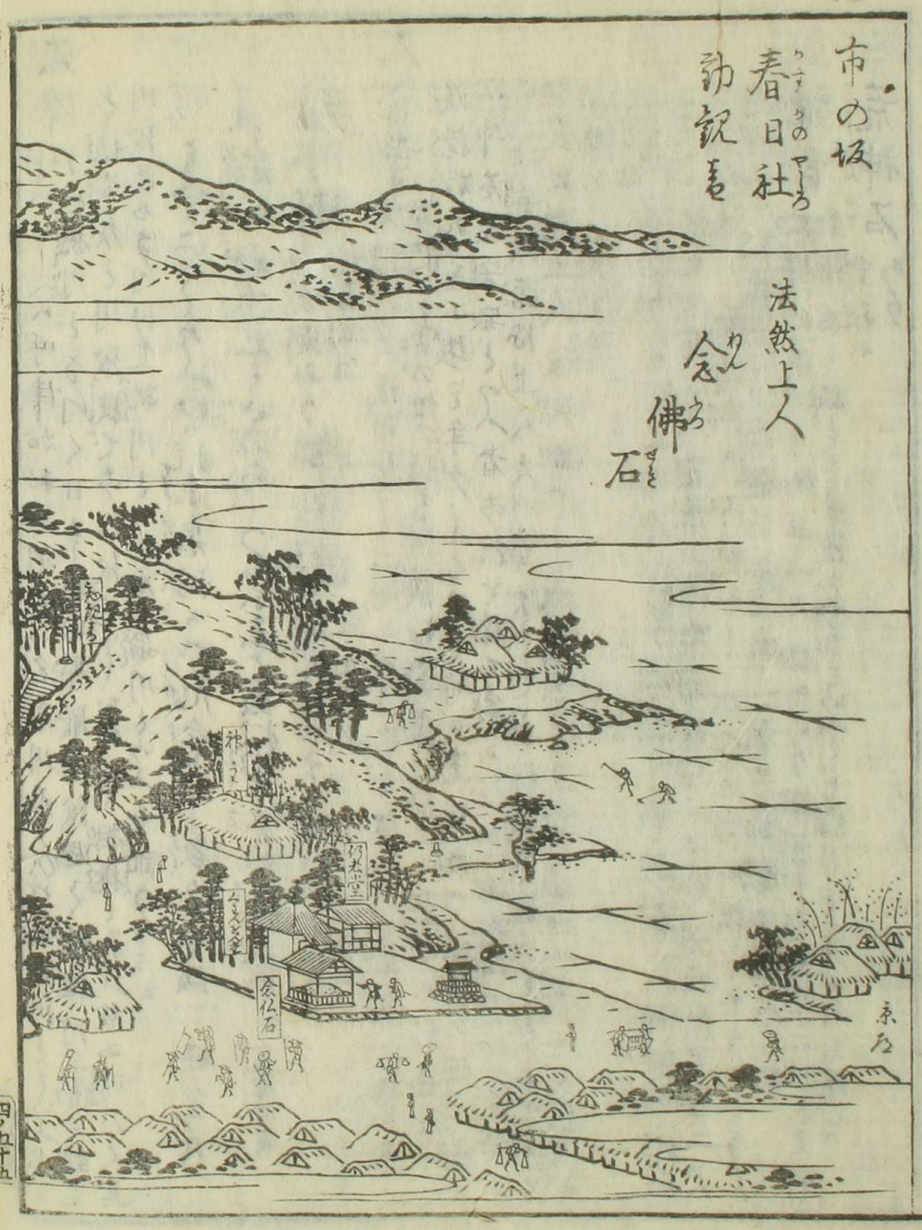
とぞいふ

言願寺　大智寺乃南二町ふあり律宗ふして本尊十一面観音ハ行基の作立像二尺脇士ハ当寺ハ聖武帝乃御願ふて建給ふ則光明皇后乃御願日本一ノ丈六の観音ハ本津の南二十町斗ふ一寺乃脚台尼寺ふあり本尊千手観音立像ハ天計

動観音　本津の南二十町斗ふ一寺乃脚台尼寺ふあり本尊千手観音立像ハ天計

荒神石　動観音堂の辺ふあり

市の坂
春日社
詠歌
法然上人
念仏
佛石

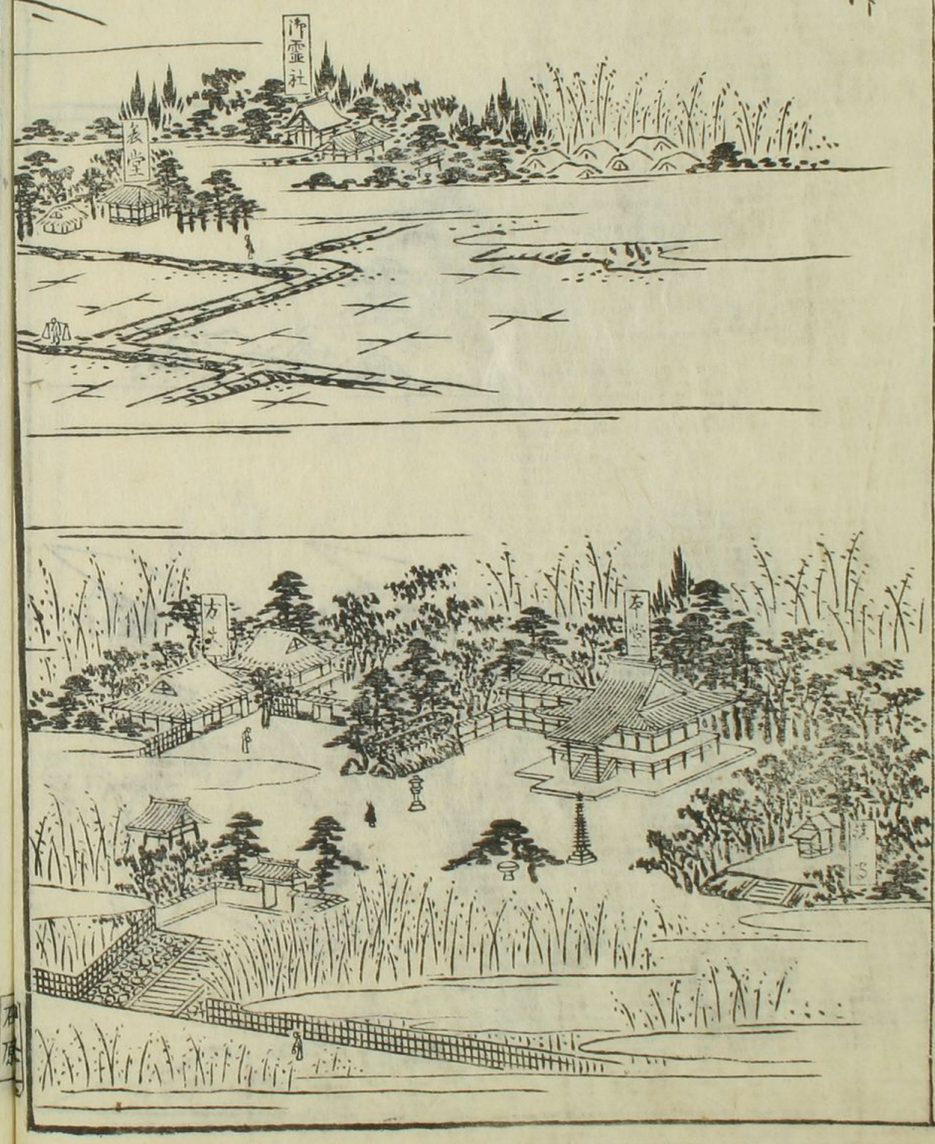


おき津乃里の
南一の坂ゟ
かとりハ山城
大和の堺ゟ
是ゟ一足ゟ
都へハ
一里ゟ近し

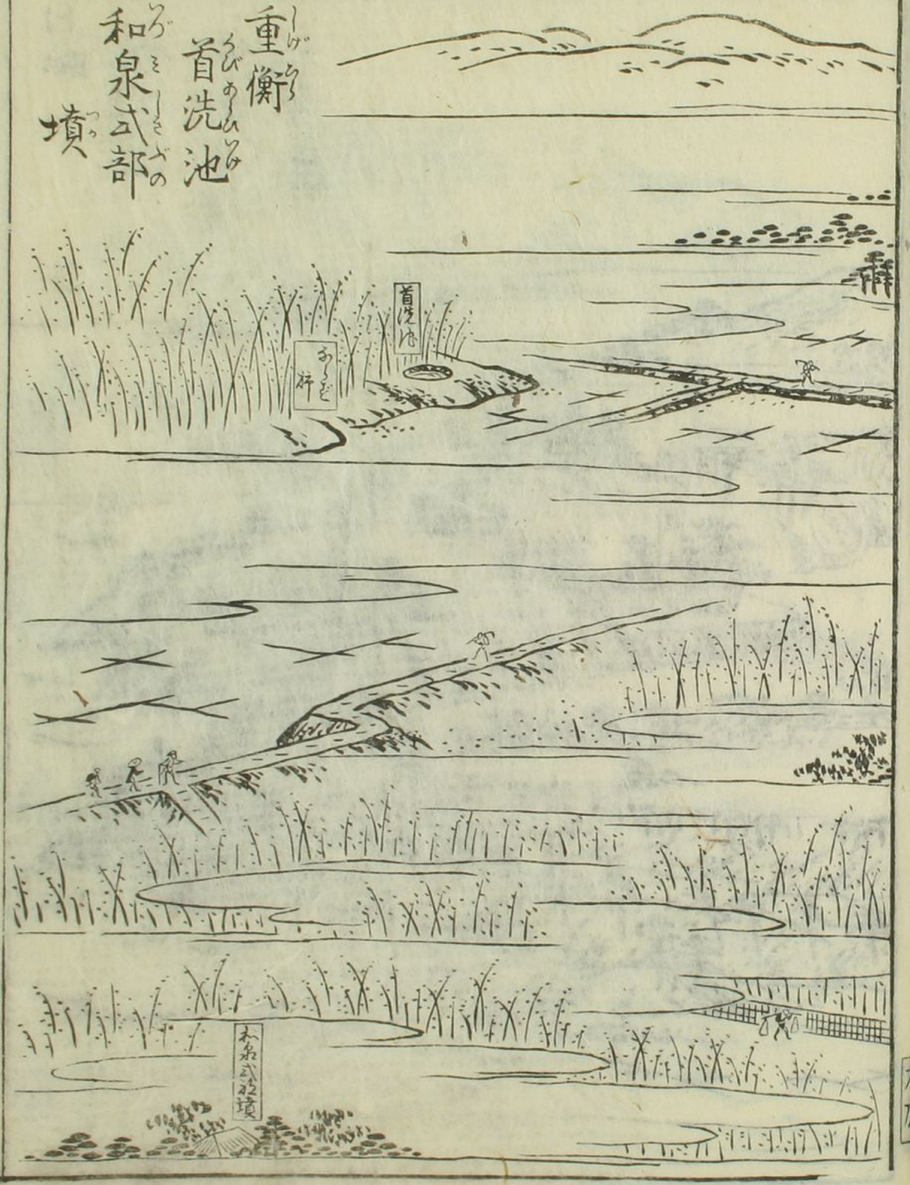
とみき茶
おゐた
都
のこゝろ

蝶斐

大智寺

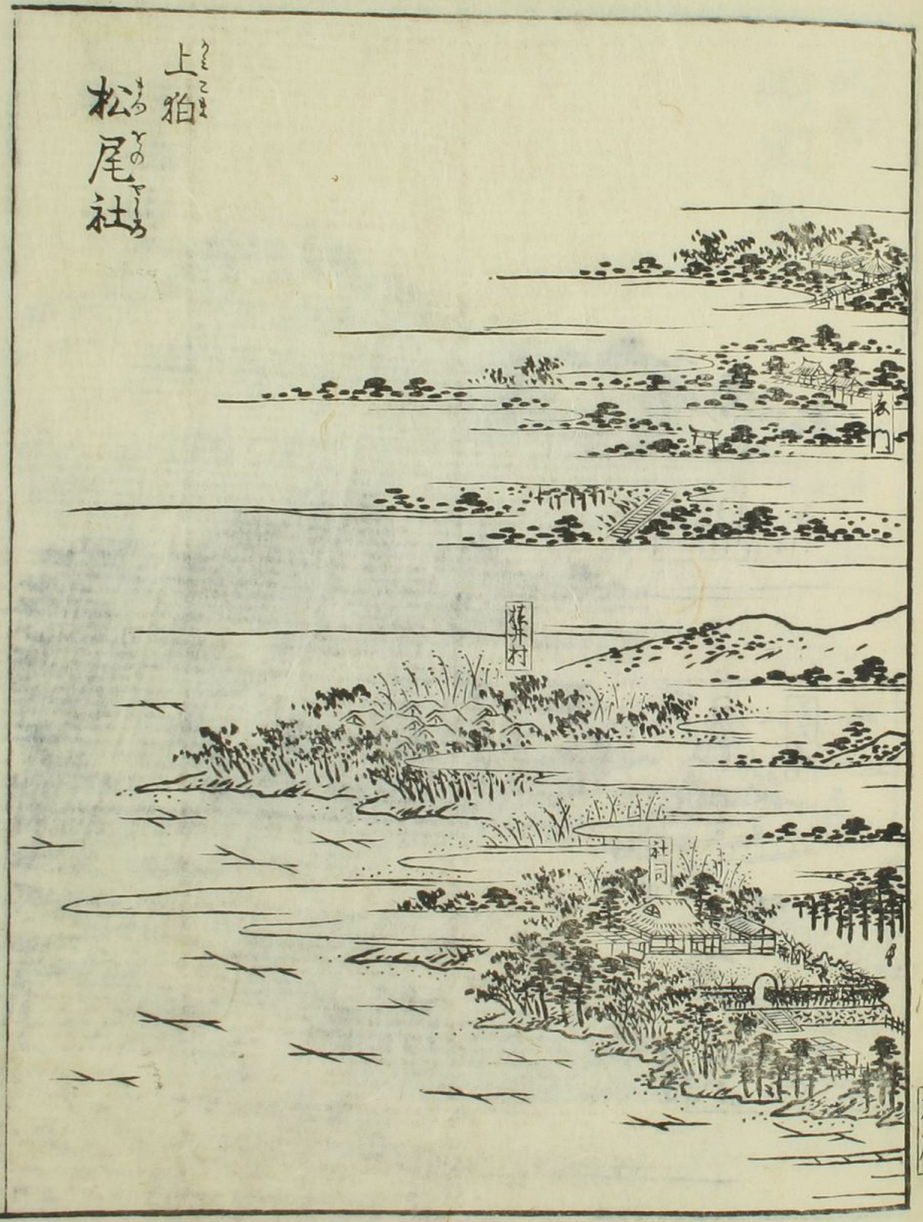


重衡首洗池 和泉式部墳



上狛
弁天山
鯉翔石
玉臺寺

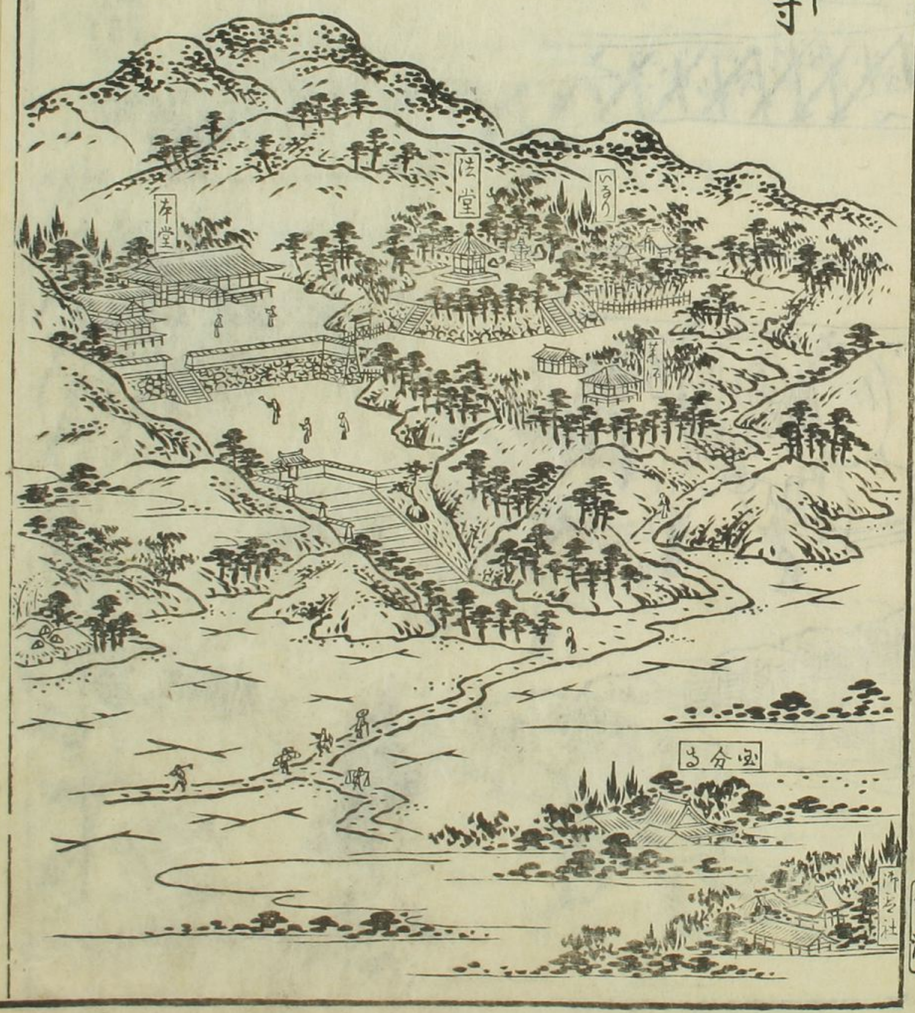
上狛 松尾社



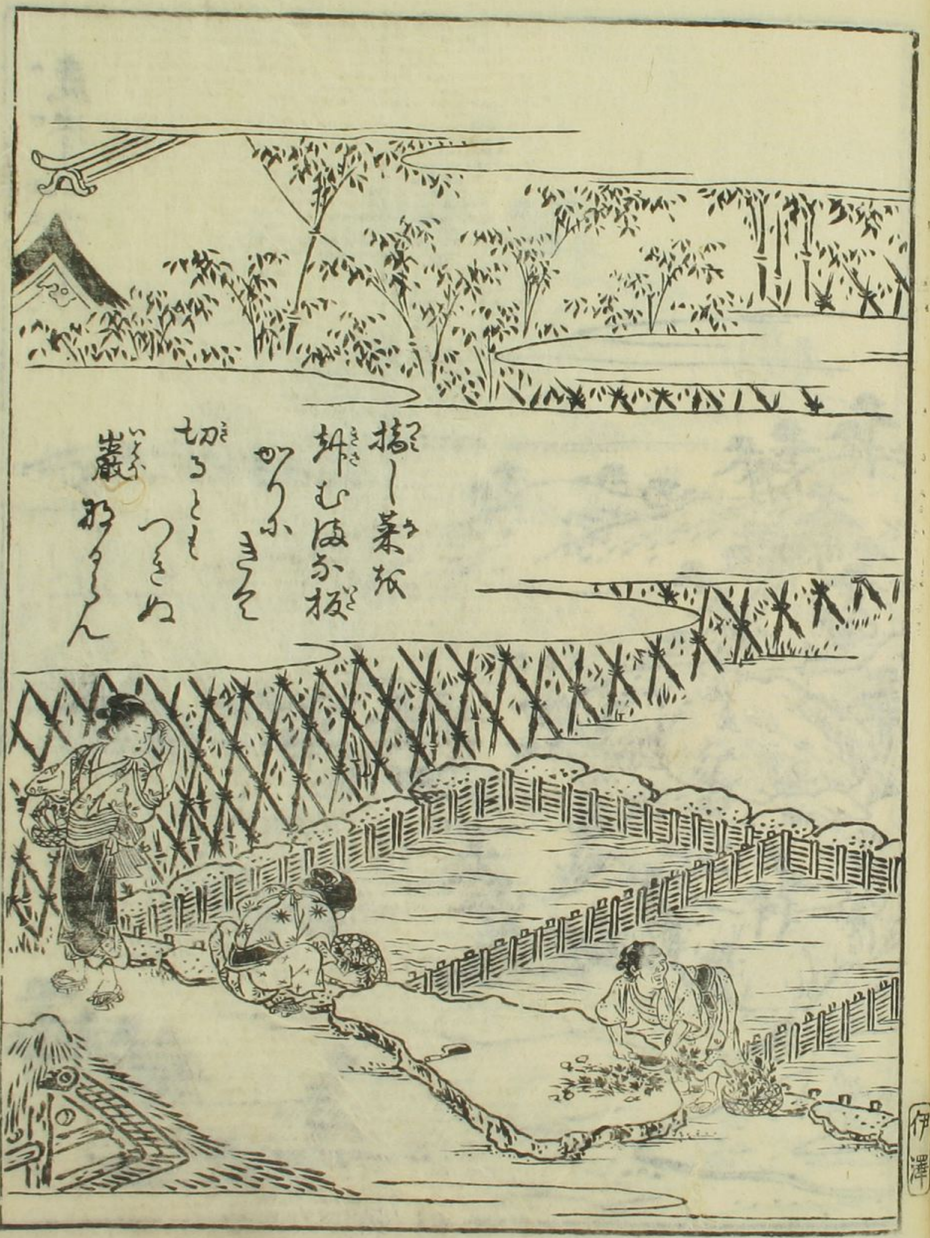
御霊社

上狛 泉橋寺

祝原 願應寺



箱根原井平尾村
茶切石
由緒前編ふ
ごへんらう



揚茶
坪む
のうふ
七ふ
巌

秩父

鹿背山不動
春延之

瓶原 本津の巽二十町計にあり、むかしは三日原　三香原　甕原　三鹿原　等に書り中に多郷あり紀纈に見へたり

拾玉集　わすれ川を渡るにいづみ川秋の十日あまりのもちろ　慈鎮

御霊社 瓶原にの原村にあり、いにしへ国分寺乃鎮守之。土人生土神とす

瓶原離宮 旧地詳ならず。続日本紀曰、天平十一年三月甲午、天皇甕原の離宮に行幸し給ふ。又曰乙卯、天皇及び太上天皇甕原の離宮に行幸し給ふと云。和銅六年乙卯甕原にみゆきあり。同七年閏二月己卯甕原離宮に行幸し給ふと云

清見川原 瓶原岡崎村より鴨乃わたしに至る川原をいふ

加茂渡口 一名瓶原より加茂に至るわたし也。一里ばかり川上艮の方ハ笠置・飛鳥路・有市等に往来し、坤の方ハ南都般若坂に出る往来を経、足より四十町にあり。其末を保賀操に到る。南ハ奈良路にして南都の町天益乃小山に出る。其中間に民村あり、これを梅谷といふ

法華寺野 鴨乃渡の南八町ばかりにあり、村の名とす。民家あり

浄瑠璃寺 法華寺村乃かたはらにあり。本尊ハ阿弥陀仏乃大像九躯を安置す。天元年中多田満仲寺を創し、経基乃化をまつる。薬師仏を安置す。其後義明上人再建しまつる

伽藍開記曰、浄瑠璃寺ハ山城国相楽郡本津川の上西乃方小田原に在。本朝六十四代円融院天元年間ニ多田満仲源公当寺に就て精藍を創し給ふ。僧行基手造乃薬師仏を安置し、號して浄瑠璃寺といふ。荘田若干頃を納て寺を養ふ。其後凡六十余年を経て廃す。義明上人といふ

あり。錫杖ならびに仏工定朝造る所乃阿弥陀の九躯を以て当寺に安置す。第七十八主二條天皇宸書乃額あり。又宮荘厳院として鎌倉将軍実朝公寺田一千石銅銭一千貫を納て僧粮とす。賞く山中に子院若干所あり。実に一乃大精藍之惜らくは年代久遠にしてやうやく廃し、唯九躯乃弥陀の像存す。故に庶民寺号を称して九躰仏といふなり

郷名にあらず加茂乃あたりの南之中に多郷あり。北村　舟屋　茅並　里村　大野　観音寺　高田　等也

加茂岡田山 加茂乃まへつかた岡田山より銅出しとぞ。三代実録曰、貞観八年六月十日丙寅、筑前守従五位下清原真人真貞を以て山城国岡田山乃銅を採しむる使とし、判官一人主典一人

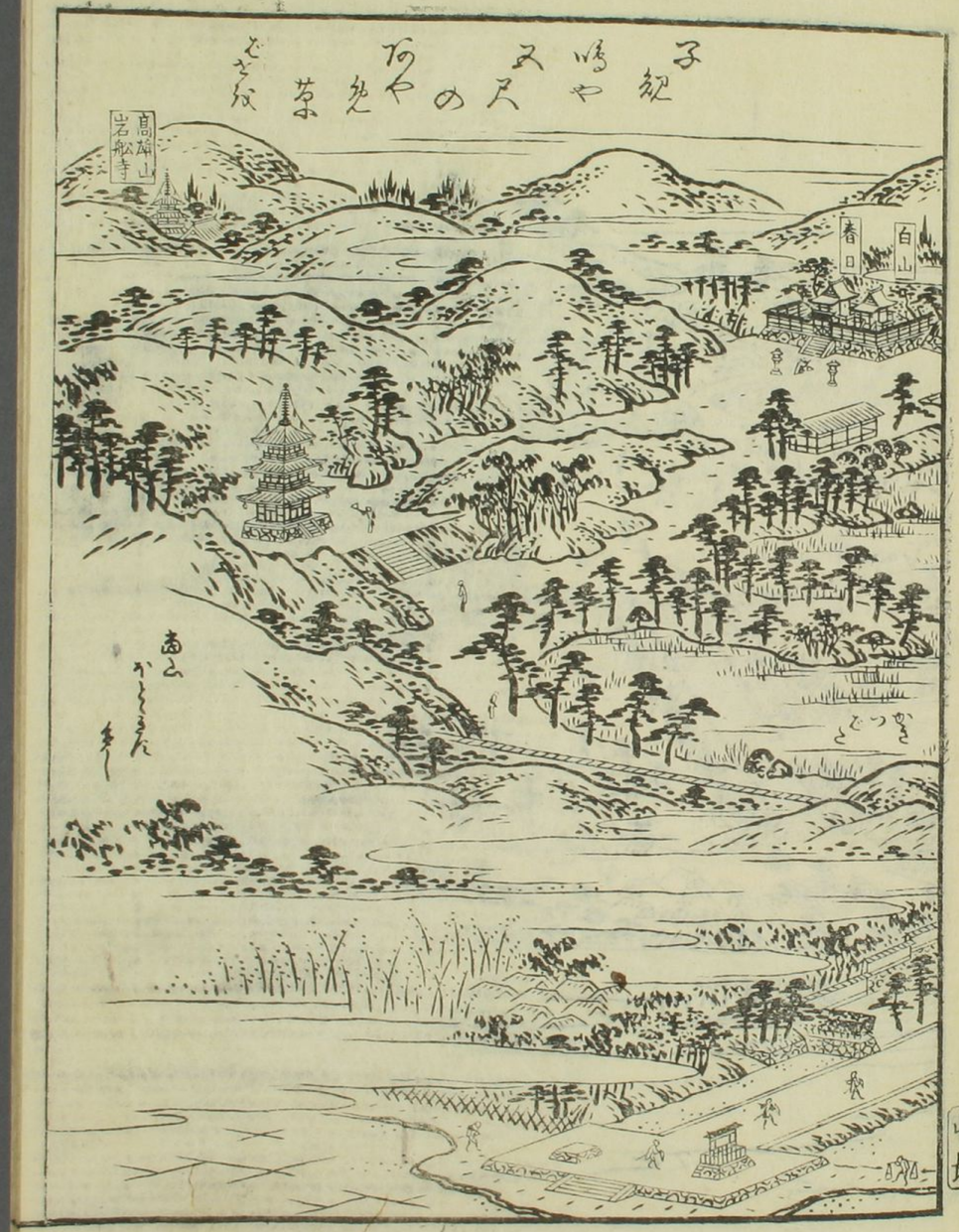
加茂社 加茂里村にあり。平安城加茂左神宮さしめて勧請の地なりとぞ

風土記曰、可茂乃社、可茂と称するハ日向の曽之高千穂の峯に天降て坐し、また神を賀茂建角身之命、神倭磐余比古乃御前に立坐しくて、大和葛木山乃峯に宿坐しかしより漸に山城国岡田乃加茂に遷て、山城川に随て下坐て、葛城川と加茂川と会立所に坐にしと云。延喜式曰、相楽郡岡田鴨神社と云

東明寺 加茂村にあり。法華宗后の本国寺末にして天台宗之後世今宗となる

岩船寺 浄瑠理寺の末院にして法華寺村の山奥九町計にあり。本尊阿弥陀仏座像。八天聖武帝天平年中の建立也

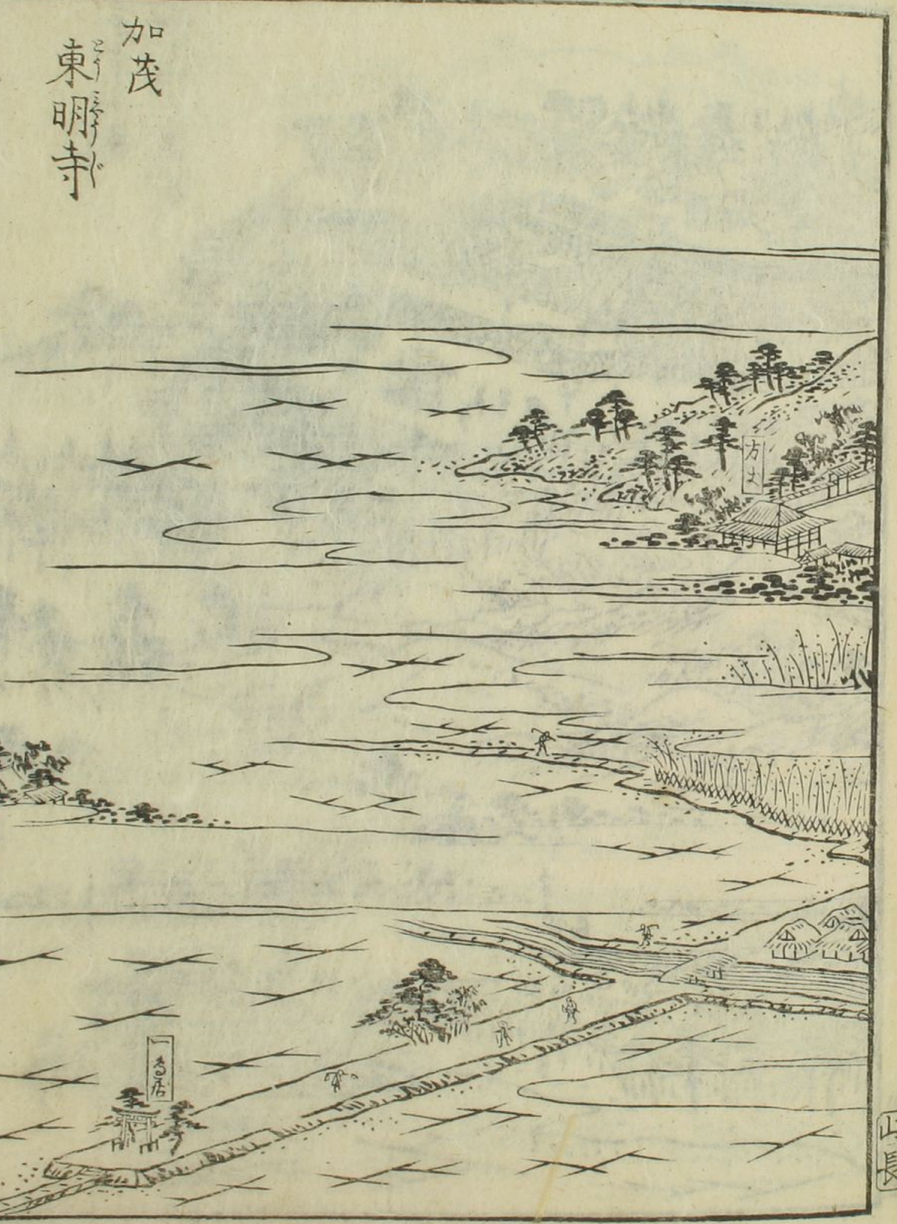
願興寺 瓶原西村十町計小かにあり。禅宗、古へハ天台宗にして薬師堂山上にあり。荒廃して後世東福門院御再建しまふ

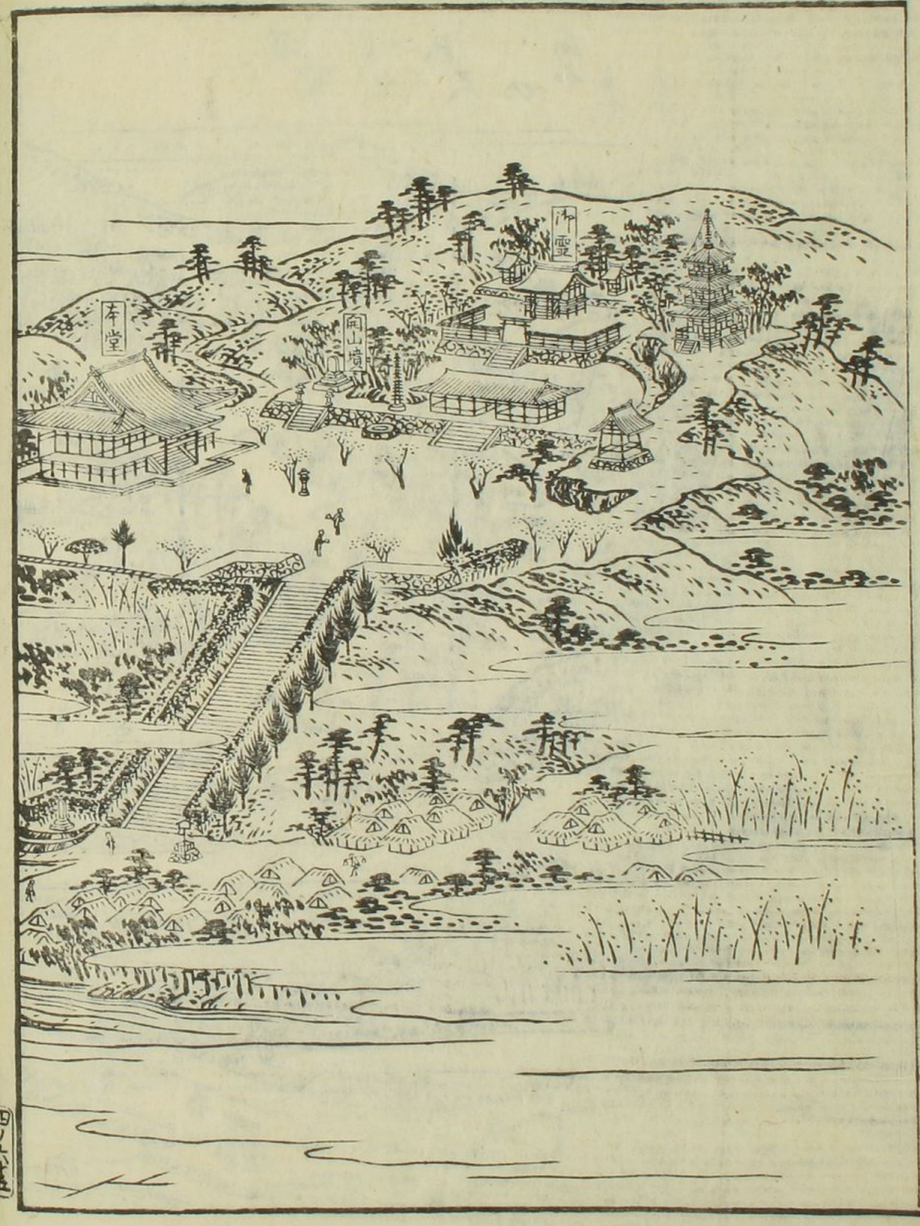


子規
鳴や
又尺の
なやめ
草花

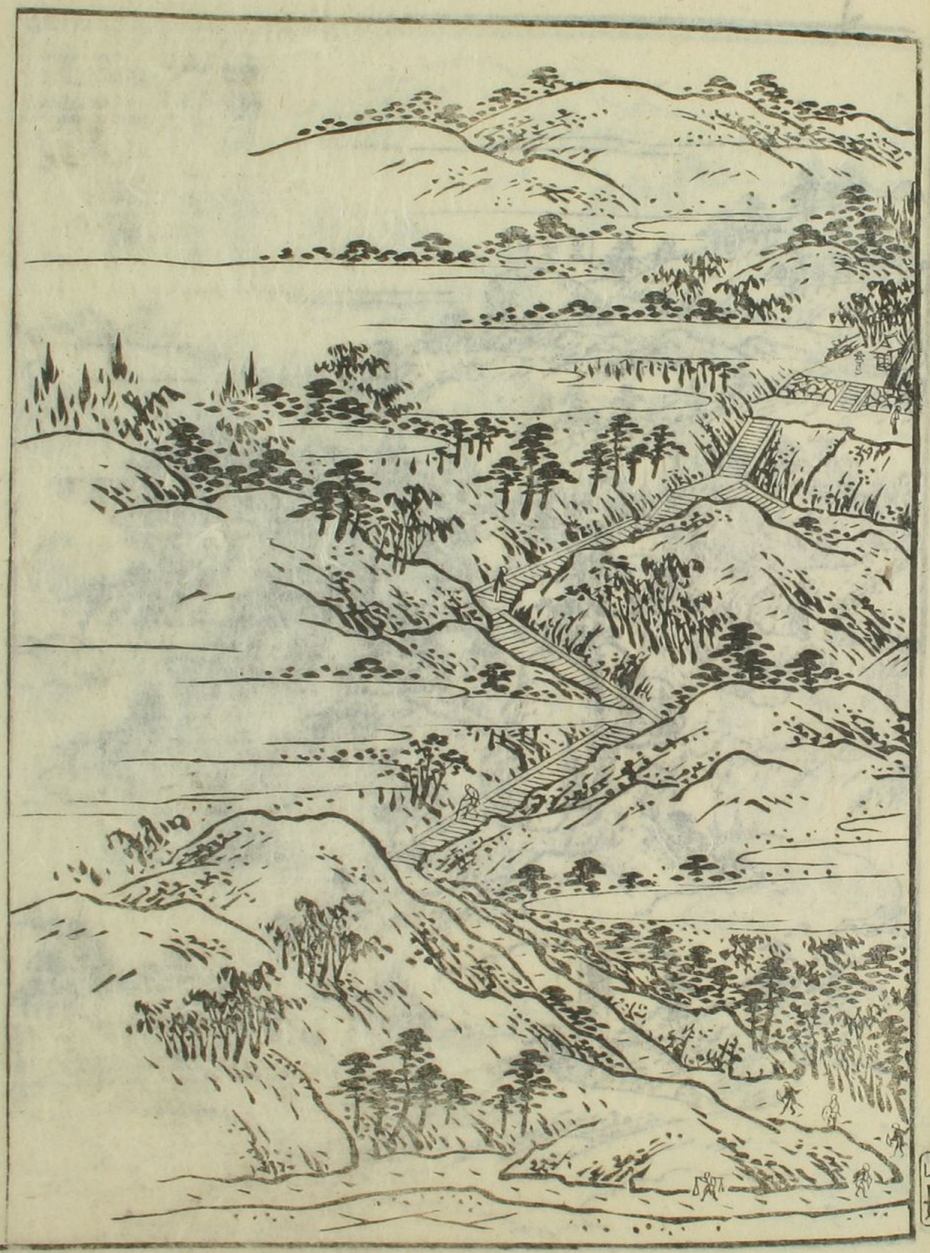
西塔尾
小田原山
淨瑠璃寺

加茂
東明寺





笠置山麓
栗栖天満宮



笠置山名石之細圖

弥勒石　十丈余

外佛像石　十丈余

笠置皇居 元弘元年九月 後醍醐天皇笠置ニ臨幸シ給フ時供奉ノ人所ノ名弥勒石ノ傍ヨリ奉ル歌ニ
曼ふ其間ニ溝乃如ク有リ小ノ方弥勒石乃山頂ニ至ッテ地形低クシテ
増鏡云後醍醐天皇笠置ニ御ス
うつきせぬ身を松風ふきそへて

左平記云笠置乃城ハ中ニ高ク一ニ聳テ一所ノ砌ヲ築ケリ
の峯道ハ僅ニ一尺ニ足ラス左ハ絶壁ヲ切ッ下シ右ハ谷深ク
ヲ切ッ下シ石ヲ畳テ高ク築キ上タリ
陶山小見山夜討道 笠置乃城ヲ攻ル時
左平記云其夜ヲ九月晦日ノ事ナレハ
しく吹て雨ヲ白ヘキヤウモナシ
をひみとうしろふさして城乃外
かけつくしたり
あり屏風ヲ立ツル如ク
うち寄ル事ヲ得ス人皆いふ
山若シ山石の上ニ坐シ
ニ乃上ヨリ
やそくと皆のぼりそくり下ル
諺曰笠置乃山上ニ飛鳥
後醍醐帝攻ラレ
交易縦組ンとくく
有ル村乃
川中ニ

都名所圖會拾遺自叙

白虎通曰京師者何謂也千里之邑蕃也蓋法
日月之往千里云古昔
邑詔之曰平安城披十二之通門立九重之廣
路街衢洞達櫛比鱗次而矗矗可謂不覩皇居
壮安知
天子尊凡其山川之形勝土地之秀
異甲乎天下矣余幸生皇州閭巷洛陽而荷簦
飄蓑笠之昊翺翔於東北之丘墟逍遥於西南
之村野蹰躇巖臨水坐於桑下憩於松蔭或訪神

窠或過佛壟無不尋問名勝之地無不搜求古
蹟之幽時々誘引畫工春朝齊隨見即摸之遵
聞即筆之矣嚮著都名所圖會六卷既而所恨
則顯古而晦今者多矣今不昭之則後世益湮
沒而不能知其蹤跡豈不多慽哉由是更補脫
漏重著五卷而續前編之後焉抑自
明王之制封畿建都邑已来到於千載治于治
國平天下之福委姓於山林娛心於烟霞佯苔
蹊於樊童探妖艷花香誘蒼浪於澳父遭清朗
明月也近復著大和名所圖會。須磨赤石名所
圖會等之二書既而邦畿千里山川之美景豈
可竭筆端哉斑固之答賓戲或曰以無功受著
述家之譏若好古蹟博雅君子與我同志則所
冀享毀也耳

天明六丙午歲七月採筆於永昌堂

平安　秋里舜福　湘夕題

都名所図会拾遺の後ふ志る之

の大人乃上を祈まつるべうべくもあらず
かまひそ。いと命をきそくくしくて
言かまのさちありてやうく世まんとてけそ乳物と
なりてそこ人のみやこ辺のなふとやいふらむ
物ま。今いとそのよろこひまさくて。拾遺五巻をあつ
めりけりそこて物のよく似うまつるへ画所の希つま
いまも見ゑれとも更ま小冊
そく私人のそうまおさ候。夜川ま養も笠をそり
あつ物牙けりぬくおぬまも川長うそうまてそら
きりあつまつりといふつまなもしはそふ有

おお人ま乃ふいとくみうま葉ま須ときこえぬる
こをもはちはりひまるやいふことしの形ま。

天明七年六月望日

浪速人春朝齋竹原信繁志る

国立国会図書館 伊澤

畫工 浪花 春朝齋竹原信繁

本石町十軒店 山崎金兵衛

江都書林 日本橋南三丁目 前川六左衛門

天明七年未秋新板

皇都書林 寺町通五条上ル町 吉野屋爲八梓

名所記類目錄

山城名勝志	全部二十二冊 但十二枚箱入	此書ハ山城國中神社佛閣の傳記と歌人英哲等の經歴を載百編の引書抜粋して詳記し簡単をあくる助となるべき
山州名詠志	全部二十二冊	此書ハ山城四十餘郡の山谷神祠佛堂一宇も漏さゞるその由緒故詳しく春夏の花の名園紅葉を尋て其虚実を辨ず巡覧の便と成るべき
都名所圖會	新板古板全部六冊	此書ハ山城國中神社佛閣名所旧跡よく名今其風景をうつすのまゝに描出して其略解を載たり
同拾遺	全部五冊	此書ハ前名所圖會六巻の闕漏を補ふ為に又其外を續て出せる故を以て名づく
都細見之圖	横中折本一冊	此書ハ山城國の古今の名所旧跡を悉く記し附るに方角遠近を以てし且洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
都名所之圖	横中小本一冊	此書ハ山城一国の山川名所舊跡村里つゞき一目に見渡すやうに描出し洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
花洛細見圖	折本十五冊	洛陽名所旧跡神社佛閣名物旧跡洛外洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
出來二歩京土產	全部 七冊	

山城名勝志	全部二十二冊 但十二枚箱入	此書ハ山城國中神社佛閣の傳記と歌人英哲等の經歴を載百編の引書抜粋して詳記し簡単をあくる助となるべき
山州名詠志	全部二十二冊	此書ハ山城四十餘郡の山谷神祠佛堂一宇も漏さゞるその由緒故詳しく春夏の花の名園紅葉を尋て其虚実を辨ず巡覧の便と成るべき
都名所圖會	新板古板全部六冊	此書ハ山城國中神社佛閣名所旧跡よく名今其風景をうつすのまゝに描出して其略解を載たり
同拾遺	全部五冊	此書ハ前名所圖會六巻の闕漏を補ふ為に又其外を續て出せる故を以て名づく
都細見之圖	横中折本一冊	此書ハ山城國の古今の名所旧跡を悉く記し附るに方角遠近を以てし且洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
都名所之圖	横中小本一冊	此書ハ山城一国の山川名所舊跡村里つゞき一目に見渡すやうに描出し洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
花洛細見圖	折本十五冊	洛陽名所旧跡神社佛閣名物旧跡洛外洛中洛外の町数寺社の多少迄委しく見易きやう
出來二歩京土產	全部 七冊	
京師名所圖會	全部拾五冊	
都案時記	全部 七冊	

京みやこ屋　全部　六冊

都なごの免　結本　二冊

増補新板大日本国花萬葉記　全部　九一冊　箱入　近刻

雑波丸綱目　全部　七冊

摂州名所志　全部　九冊

泉州志　全部　六冊

大和名所図會

次広明石名所図會　近刻

東丸記行　全部　五冊

西國船路記　西国航海法大意并海路の図　全部　一冊

雑波なご免　結本　五冊

大坂市中并場法大名本家屋敷出入の町人法師并諸芸人社職人商人法問屋等名前　諸職人名也　老舗名物番附　橋津并社佛閣の造舗名所旧跡名也　老舗名物番附　橋津并社佛閣の造舗名所旧跡名也　諸芸人の役者しるす

此書は摂州国内社仏閣のうち名所旧跡名山勝景の由来名木名池井堤橋名市中川々町筋橋々橋名或は国郡古実委記しおのおの絵載ありに風景を模写せり

此書は和国の名川村里并社佛閣名所旧跡のうんぬん国郡地名の古実来歴等しるし古今を載せ

大和の国神社仏閣霊場旧跡今古ともに絵図風景模写して国ごとにその筆舗をあらわしおのおの旧跡古実をしるせり

摂津尼ヶ崎より播磨一国の神社佛閣名所旧跡今古のうつり変りをしるしかつそのならんでうつくしく記しおのおの古歌を載せ舊事をあらわせり

東海道五十三次并社佛閣名所旧跡ならびに駅場旅宿名物或はうつり風景或はうつし道の記おのおのをあらわす

早稲田大学図書館
011688994758